



University of the Ryukyus



令和6年度
琉球大学

SDGsに関する 教職員・学生アンケート調査報告書



琉球大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

琉球大学 SDGs 推進本部

- 目 次 -

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法・集計表の見方	1
(3) 回収結果	1
(4) SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・	1
2. 調査結果概要	2
(1) 調査結果概要	2
3. 調査結果：教員・職員	3
(1) 回答者属性	3
(2) SDGs の理解度	5
(3) 課題解決の取組	11
(4) 重点的に取り組むべき目標	17
(5) 教員と SDGs との関わり	27
(6) 今後の SDGs の取組に関する意見	31
4. 調査結果：学部学生・大学院学生	36
(1) 回答者属性	36
(2) SDGs の理解度	37
(3) 課題解決の取組	42
5. 取組事例	50
(1) 教育部門の取組	50
(2) 研究部門の取組	51
(3) 社会貢献部門の取組	52
(4) 業務・ガバナンス部門の取組	53
(5) カーボンニュートラル推進部門の取組	54
6. まとめ	55
(1) まとめ	55
7. 調査票	57
(1) 教員向け	57
(2) 職員向け	62
(3) 学部学生向け	67
(4) 大学院学生向け	69

1. 調査概要

(1) 調査の目的

SDGs（持続可能な開発目標）への取組について、教職員及び学生の理解度、考えや実践等のアンケートを行うことで、本学における SDGs 活動のチェックを行い、改善しながら SDGs 達成に貢献することを目的としています。

(2) 調査方法・集計表の見方

① 調査方法

教職員及び学生（学部学生・大学院学生）を対象に、Web 形式によるアンケートを実施しました。

② 集計数値の見方

本報告書に記載する数値は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはなりません。

帯グラフでは数値が 0.0 の場合記載はしません。

(3) 回収結果

① 教員・職員

調査実施日 : 2024 年 12 月 9 日～2025 年 1 月 10 日

回答者数 : 教員（常勤・非常勤） 172 人/873 人

: 職員（常勤・非常勤） 282 人/2,718 人

② 学部学生・大学院学生

調査実施日 : 2024 年 9 月 24 日～10 月 31 日

回答者数 : 学部学生 3,226 人/7,038 人

: 大学院学生 577 人/838 人

(4) SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・

すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGs の目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030 年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

【出典：国際連合広報センター】

本学では、第 4 期中期目標・中期計画において、教育・研究等活動における SDGs の取組の推進と島嶼地域の課題解決に向けた多様なステークホルダーとの連携・協働を掲げており、これらをスムーズに進めていくためには、何よりも教職員が SDGs に関して自分ごとと認識し、自発的アクションを促していくことが求められます。

2. 調査結果概要

(1) 調査結果概要

① SDGs の理解度

- SDGs の理解度について、「内容を理解している」（「内容をよく理解している」＋「ある程度理解している」）の割合は、教員は 9 割強、職員 8 割弱となり、過去調査と比較すると、高い水準を維持しつつ、わずかに上昇しています。教職員全体の理解度は年々着実に高まっています。【教員・職員 p5】
- 職員のうち 2 割は、SDGs の内容を十分に理解しておらず、SDGs に関連付けた自身の業務や取組を意識できていないケースが示唆できます。【教員・職員 p5】
- 学部学生及び大学院学生については、SDGs の「内容をよく理解している」と回答した割合は昨年度と比較して、学部生は 11.3%、大学院生で 10.0% 上昇しています。SDGs 関連科目の提供が学生の高い理解度に繋がっているとみています。【学部学生 p37、大学院学生 p39】

② SDGs の取組状況

- 学生の SDGs の理解のための情報収集・学習の取組について「している」と回答した割合は、学部学生で 2 割弱、大学院生で 3 割程度となり、令和 5 年度と比較すると、それぞれ約 5 ポイント減少していますが、「する予定」を合わせた割合で比較すると、上昇しており、情報収集・学習の取組意欲は高まっていることがうかがえます。一方で、「するつもり（予定）がない」と回答した割合は、学部学生で 3 割、大学院学生で 2 割弱となっています。【学部学生 p42・大学院学生 p43】
- 教員・職員の理解のための情報収集・学習の取組について「している」と回答した割合は、教員で 5 割強、職員では 2 割強となっています。職員については、日常業務と SDGs を紐づけるような取組等、SDGs の理解度向上が求められています。【教員・職員 p12】
- SDGs の課題解決の取組について「している」と回答した割合は、教員・職員、学部学生、大学院生もともに前年度より上昇しています。【教員・職員 p13、学部学生 p44、大学院学生 p45】

③ 重要だと思う SDGs の 17 の目標

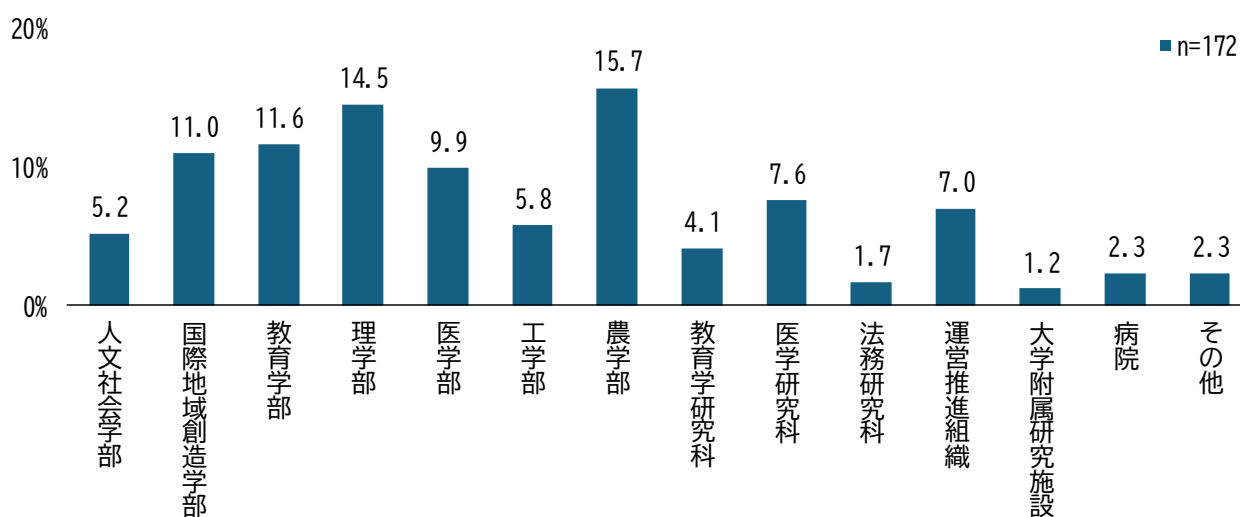
- 重要だと思う SDGs の目標は、教員・職員ともに「④質の高い教育をみんなに」「③すべての人に健康と福祉を」の項目で 5 割前後と高くなっています。【教員・職員 p17】
- 特に「④質の高い教育をみんなに」については、本学が特に取り組むべきだと思う目標でも高い割合となっており、教育は SDGs の目標達成において必要不可欠な要素だと考えている構成員が多いと言えます。【教員・職員 p21】

3. 調査結果：教員・職員

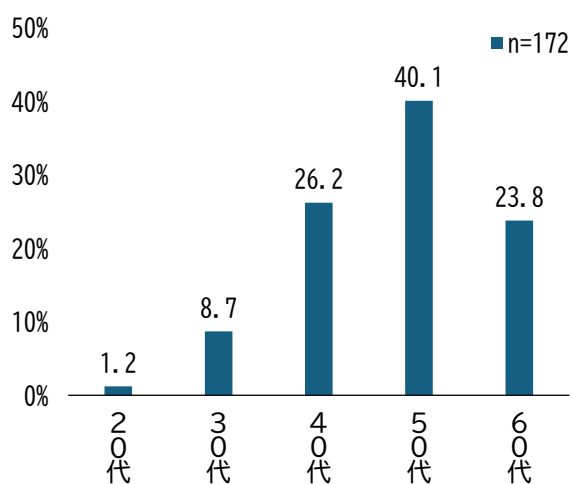
(1) 回答者属性

教員

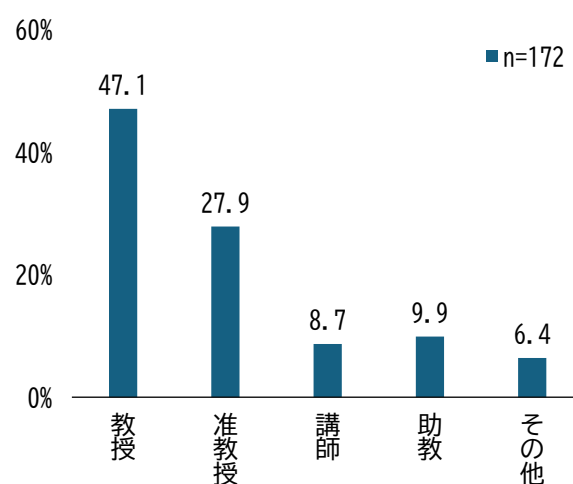
図表 1 所属



図表 2 年代

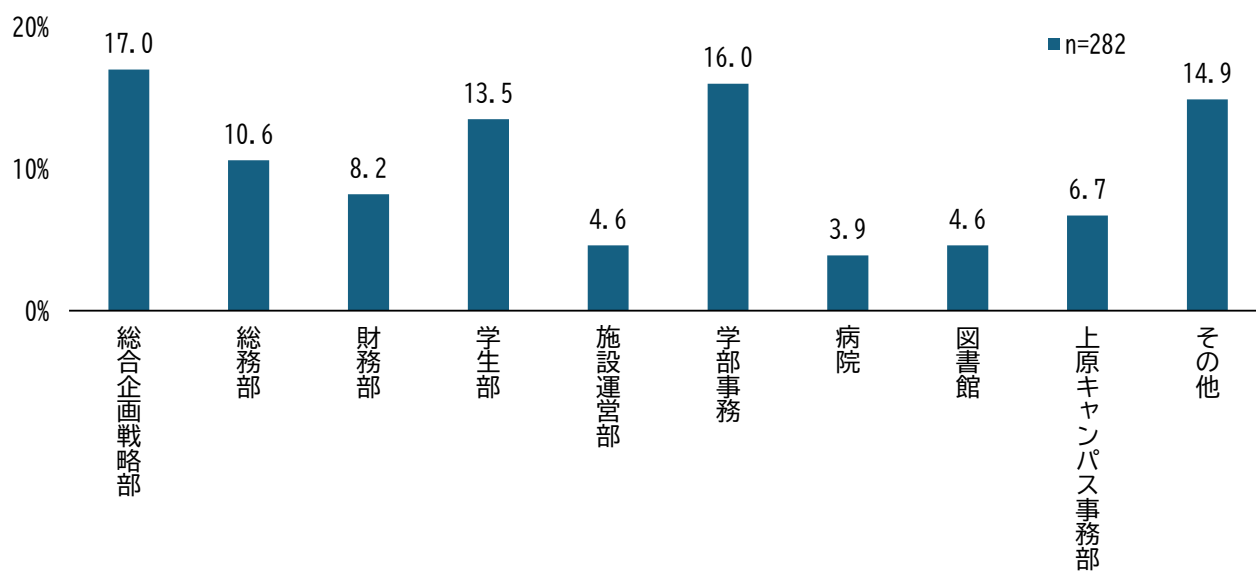


図表 3 職名

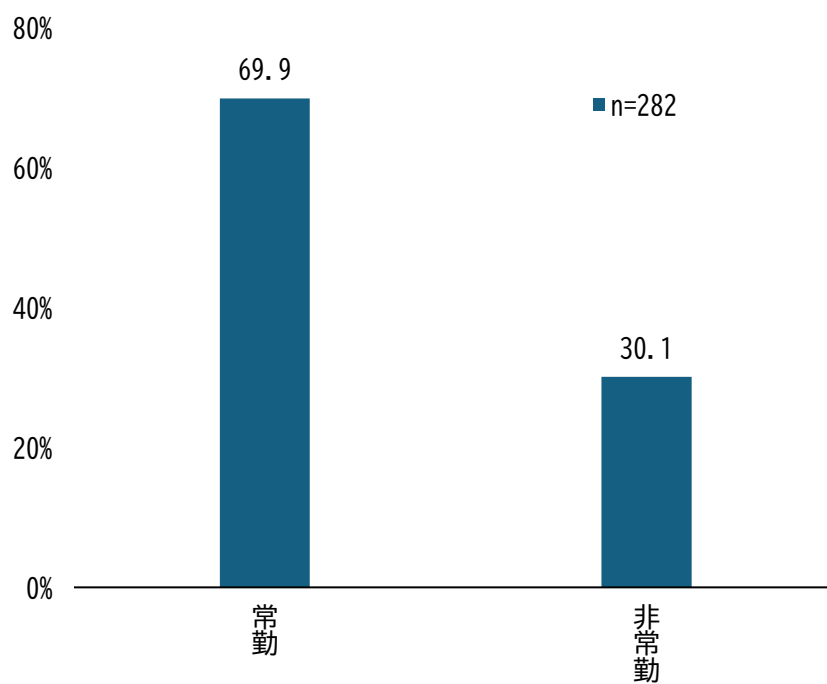


職員

図表 4 所属



図表 5 労働形態



(2) SDGs の理解度

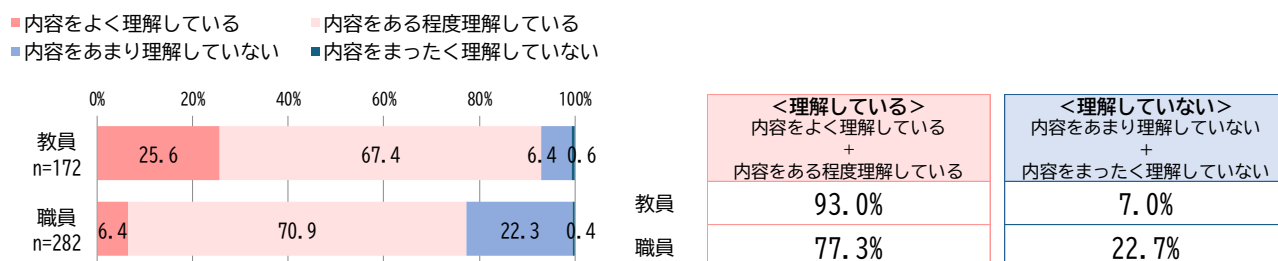
① SDGs の理解度

教員・職員

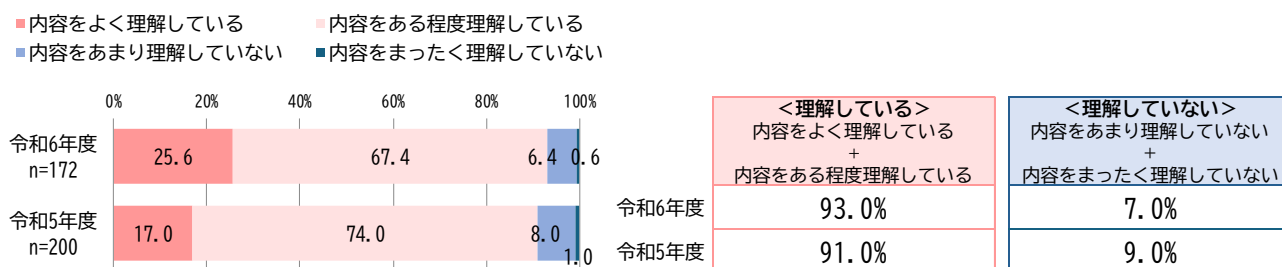
SDGs の理解度について、「教員」のうち「内容をよく理解している」と回答した割合が 25.6% に対し、「職員」は 6.4%と、19.2 ポイントの開きがあります。教員は講義等で実践の機会があるものの、職員について実際の行動に結びつけられるような取組を展開していくことが重要です。

教員は約 9 割が SDGs の内容を理解していることから、研究テーマと SDGs の目標やターゲットを結びつけるなどの工夫で、既に SDGs の取組を行っている「気づき」につながることも考えられます。

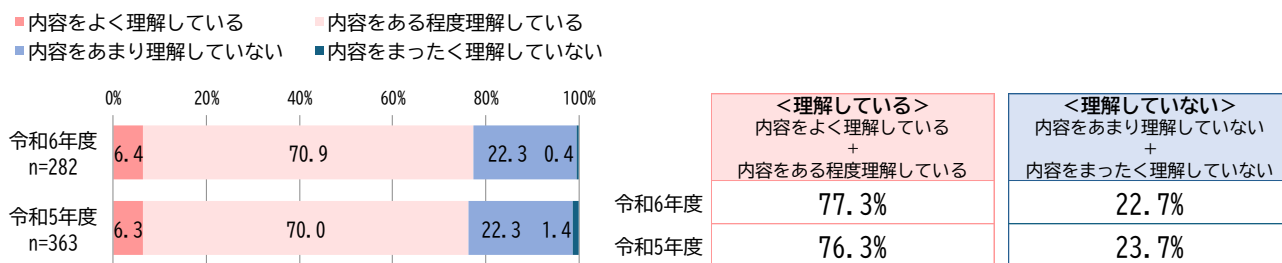
図表 6 SDGs の理解度



図表 7 経年比較 SDGs の理解度<教員>



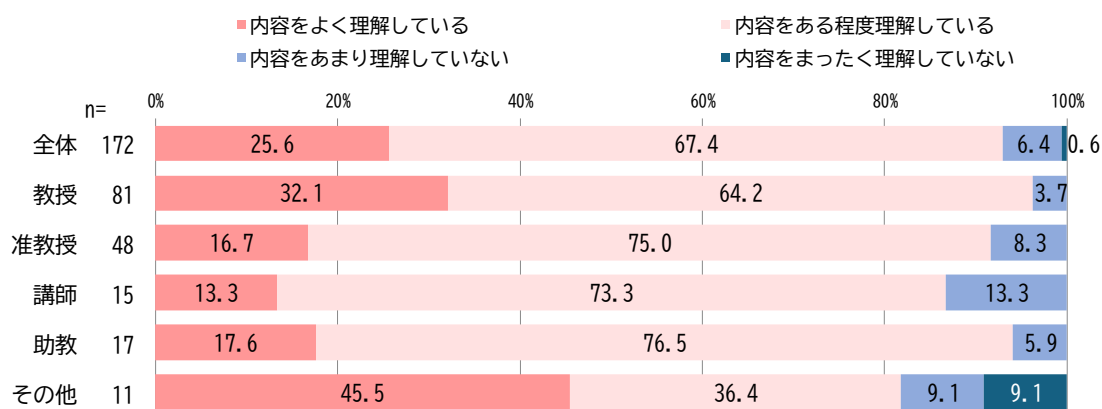
図表 8 経年比較 SDGs の理解度<職員>



教員

教員の SDGs の理解度は、職位別では、「内容を理解している/内容をある程度理解している」と回答した「教授」は 96.3%で、「助教」は 94.1%となっています。一方、「内容をあまり理解していない」と回答した割合が「講師」で 13.3%と他の職位より理解度が低くなっています。

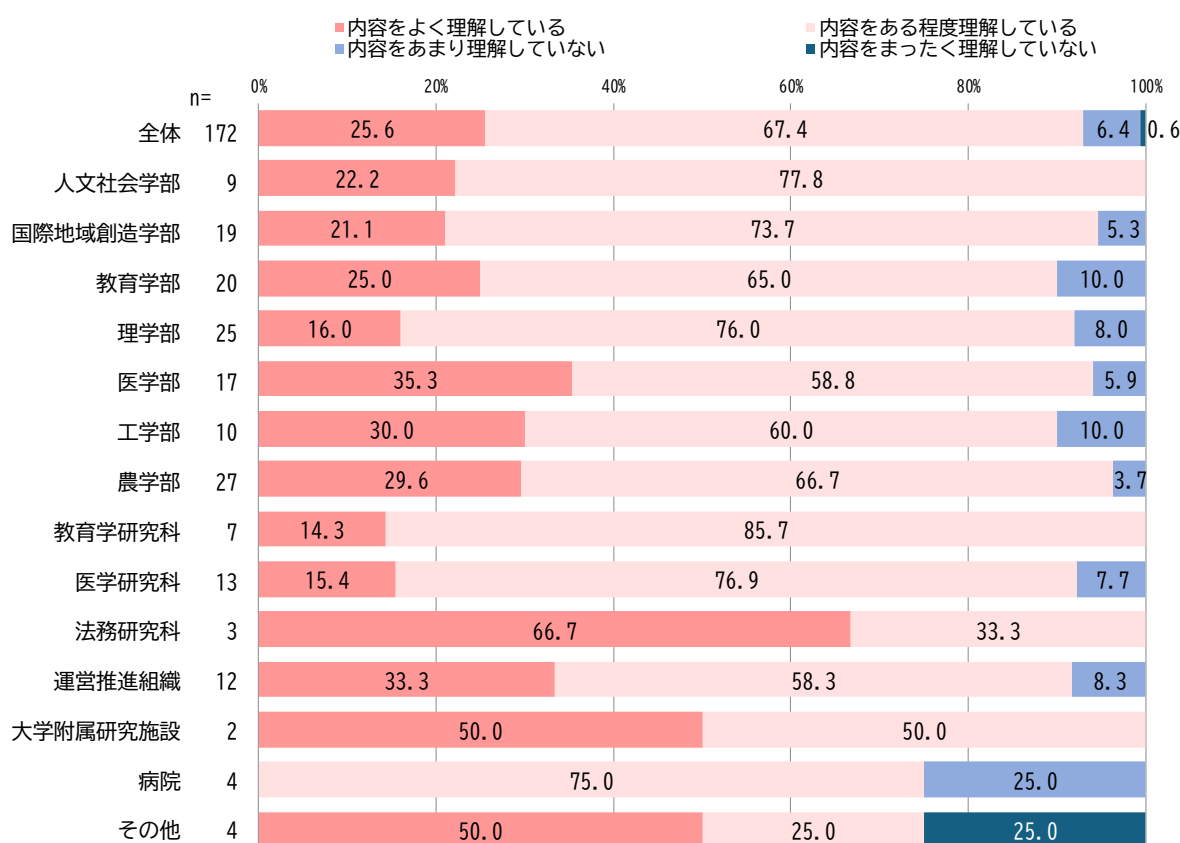
図表 9 職位別 SDGs の理解度



教員

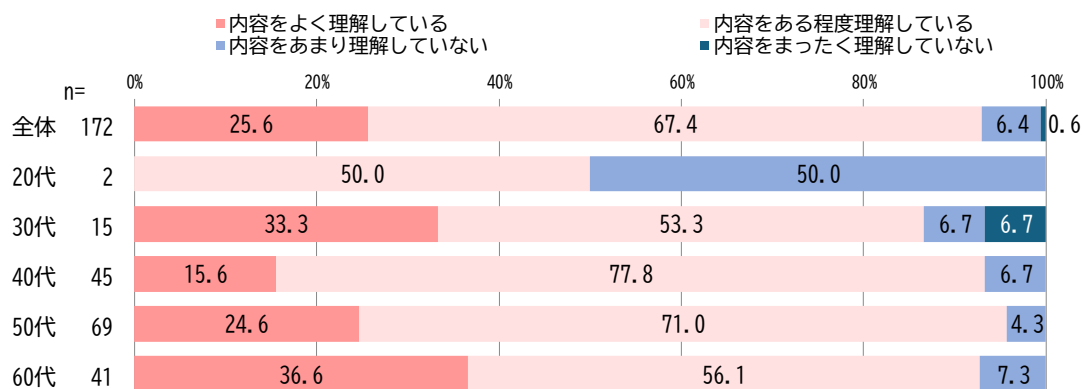
所属別では「内容をあまり理解していない」と回答した割合が「教育学部」「工学部」で 10.0% となっています。一方、「人文社会学部」「教育学研究科」で「内容を理解している/内容をある程度理解している」との回答率が 100% となっており、所属により理解度に差があります。

図表 10 所属別 SDGs の理解度



年代別では、「内容をよく理解している/内容をある程度理解している」の割合が「50代」が最も高く 95.6%、次いで「40代」が 93.4% となっています。

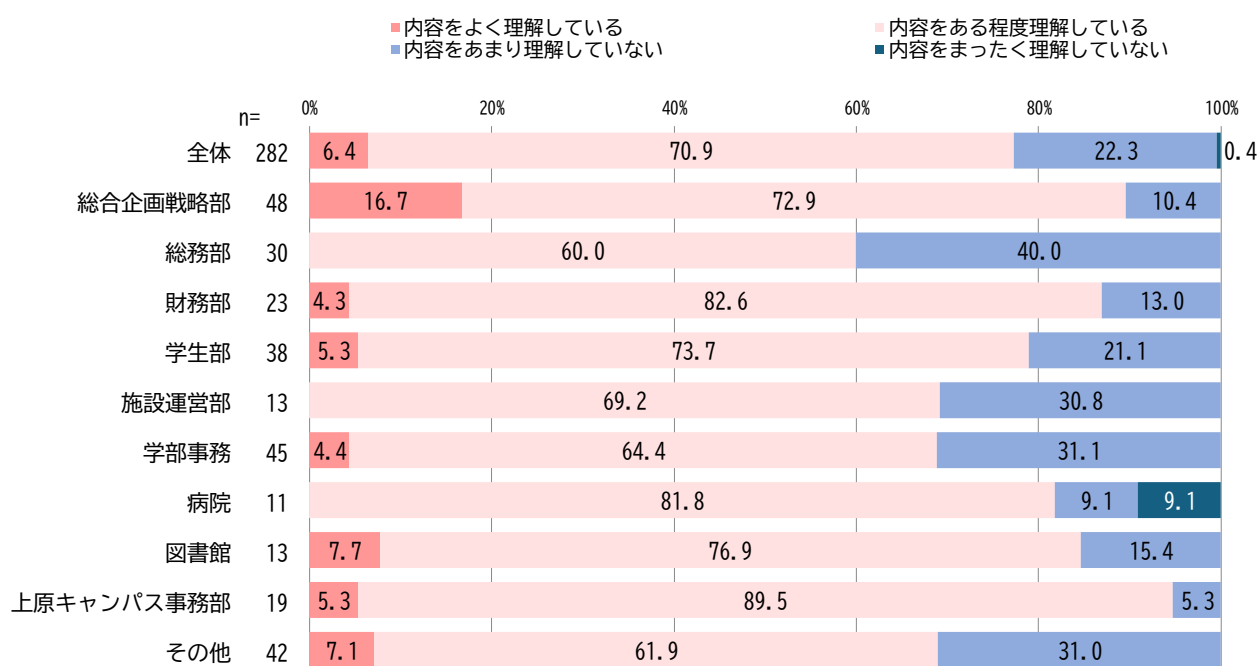
図表 11 年代別 SDGs の理解度



職員

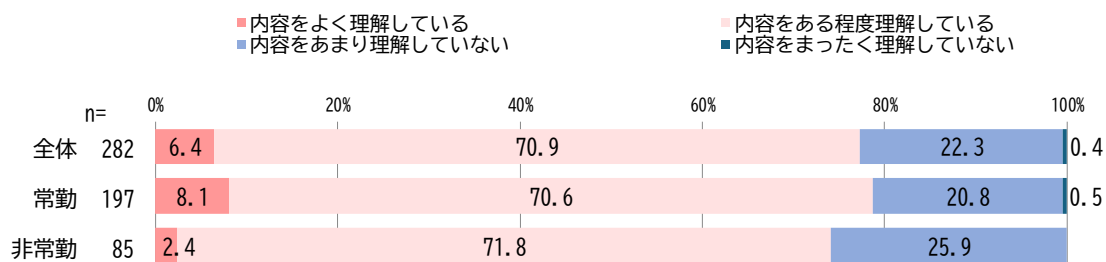
職員の SDGs の理解度は、所属別では、「内容をよく理解している/内容をある程度理解している」と回答した割合が「上原キャンパス事務局」が 94.8%、次いで「総合企画戦略部」が 89.6%、「財務部」が 86.9%と続きます。

図表 12 所属別 SDGs の理解度



労働形態別では、「内容をよく理解している/内容をある程度理解している」と回答した「常勤」は 78.7%、「非常勤」は 74.2%で「内容をあまり理解していない/内容をまったく理解していない」と回答した「常勤」は 21.3%、「非常勤」は 25.9%となっています。

図表 13 労働形態別 SDGs の理解度

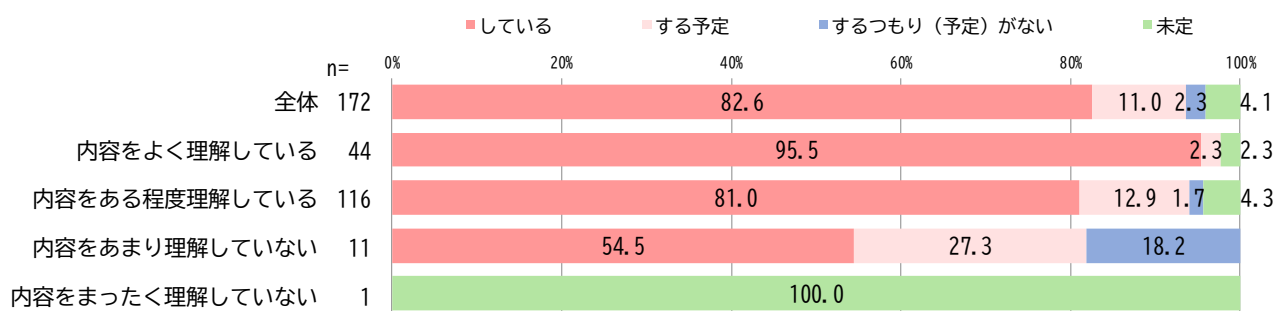


② 課題解決の取組×SDGs の理解度

教員

教員では、SDGs の「内容をよく理解している」と回答した 95.5%が業務や日常生活で取組を実践しています。理解度が高いほど、課題解決の取組を実践していることがわかります。

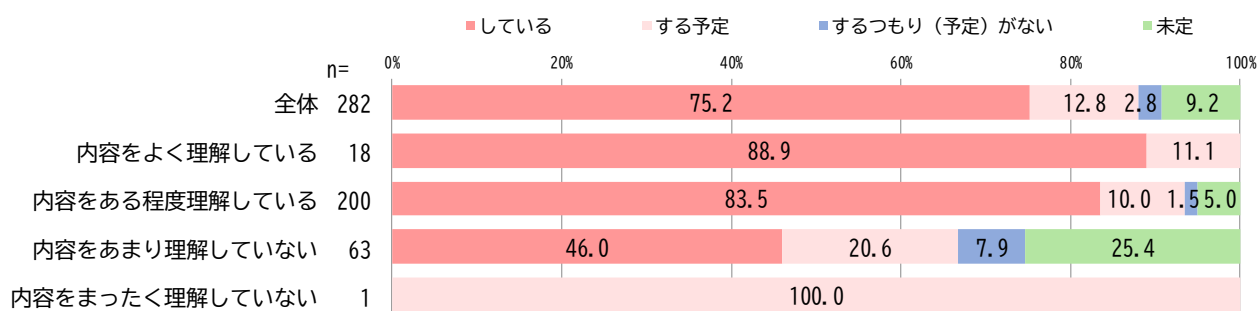
図表 14 課題解決の取組×SDGs の理解度



職員

職員についても、「内容をよく理解している」と回答した 88.9%が業務や日常生活で取組を実践しています。

図表 15 課題解決の取組×SDGs の理解度

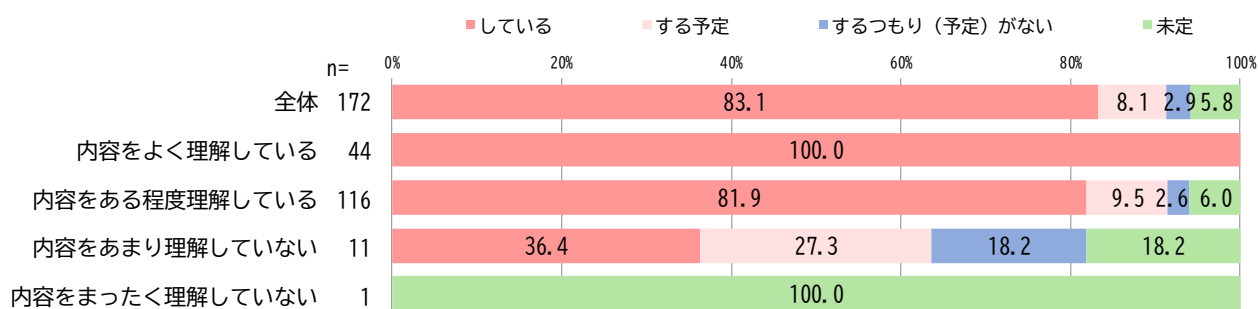


③ SDGs に合わせた自身の取組との関連付け×SDGs の理解度

教員

教員では、SDGs の「内容をよく理解している」と回答した 100%が自身の取組と関連付けていると回答しています。「内容をあまり理解していない」方の「するつもり（予定）がない」や「未定」の割合が高く、実例の広報・周知などの方策を講じることで、自身の生活と紐づいているという発見が必要です。

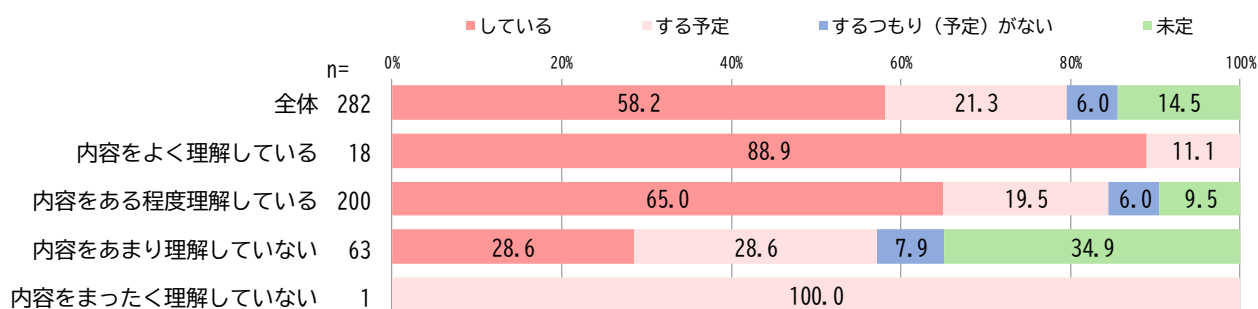
図表 16 SDGs に合わせた自身の取組×SDGs の理解度



職員

職員も「内容をよく理解している」の 88.9%が自身の取組と関連付けて実践しています。「内容をあまり理解していない」方の「未定」の割合が高く、実例の広報・周知などの方策を講じることで、自身の生活と紐づいているという発見が必要です。

図表 17 SDGs に合わせた自身の取組×SDGs の理解度



(3) 課題解決の取組

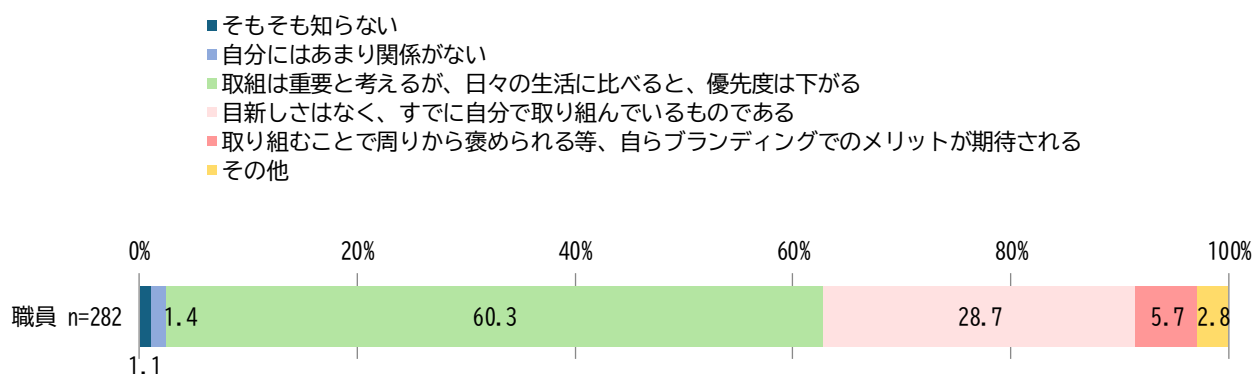
① SDGs の印象

職員

職員では「取組は重要と考えるが、日々の生活に比べると、優先度は下がる」が 60.3%で半数以上です。また「目新しさはなく、すでに自分で取り組んでいるものである」が 28.7%と日常に浸透していることもうかがえます。

SDGs を理解していることで、日々の生活の中の取組と SDGs の繋がりを意識している職員が一定数いることが分かります。少数ですが、2.5%が「そもそも知らない/自分にはあまり関係がない」と回答しており、SDGs が日常生活の事柄と関連しやすいことを確認できる機会をつくる必要があると思われます。

図表 18 SDGs の印象



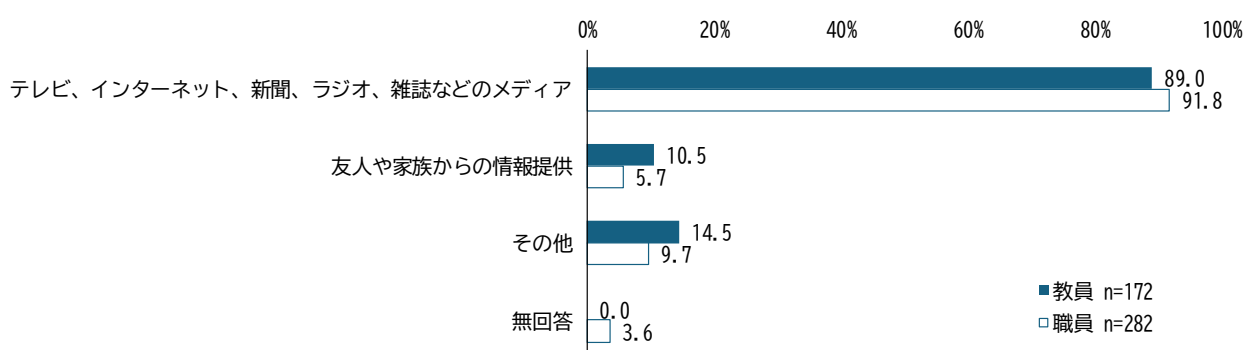
② SDGs を知った経緯

教員・職員

SDGs を知るに至った経緯については、「テレビ、インターネット、新聞、ラジオ、雑誌などのメディア」が教員で 89.0%、職員で 91.8%となっています。

その他の回答では、教員は学会、書籍などから認知、職員は職場や業務での関わりを通じての認知があげられます。大学ならではのアカデミックな立場や業務から、産官学民の協働や知の実践の取組が教職員の認知の向上につながっているといえます。

図表 19 SDGs を知った経緯



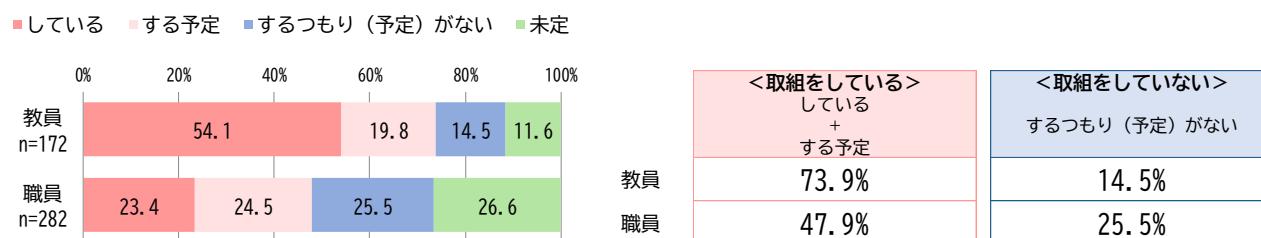
③ SDGs 理解のための情報収集・学習

教員・職員

SDGs の理解のための情報収集や学習の取組状況については、教員で 54.1%、職員で 23.4%が取り組んでいると回答しています。

教員は、授業や研究等の様々な場面で SDGs の取組内容に触れる機会が多くあることが想定されます。一方、職員は、SDGs について考えることや活動する機会が業務上あまり求められていないと意識していることが想定されます。職員については、日常の業務に SDGs を紐づけるような取組を紹介する機会等を設けることで、SDGs 理解度の向上に繋がると考えます。

図表 20 SDGs 理解のための情報収集・学習＜教員・職員＞



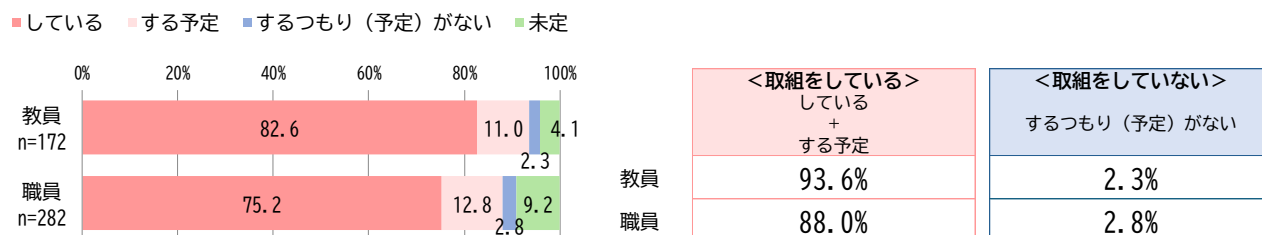
④ SDGs の課題解決の取組

教員・職員

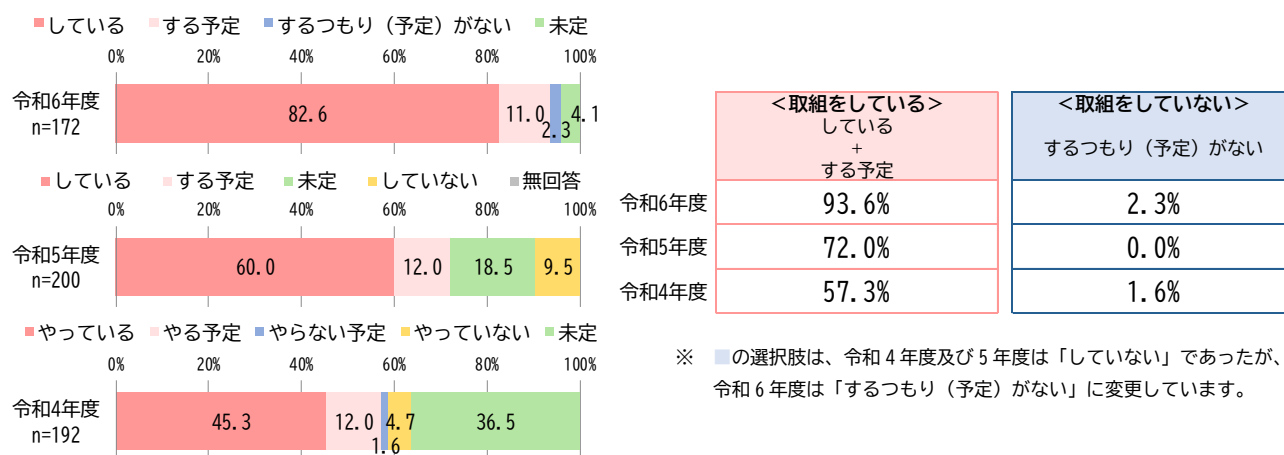
課題解決の取組は、教員の 82.6%が実践しているとの回答に対して、職員は 75.2%となっており、7.4 ポイントの開きがあります。

教員・職員ともに、所属別に実践状況に開きがみられるものの、SDGs の取組は自身の生活とかけ離れたことではないことを理解してもらう必要があります。

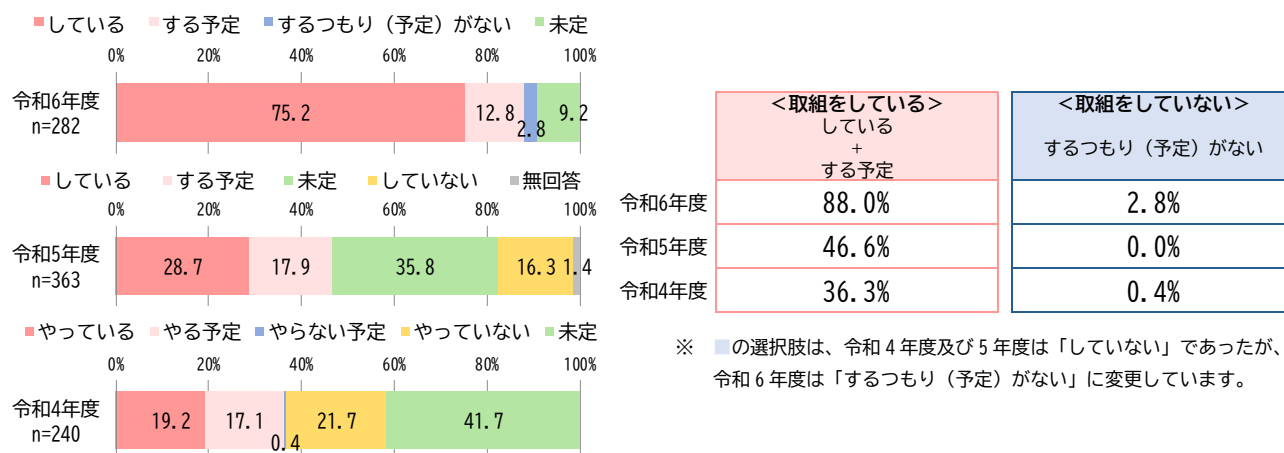
図表 21 SDGs の課題解決の取組＜教員・職員＞



図表 22 経年比較 SDGs の課題解決の取組＜教員＞

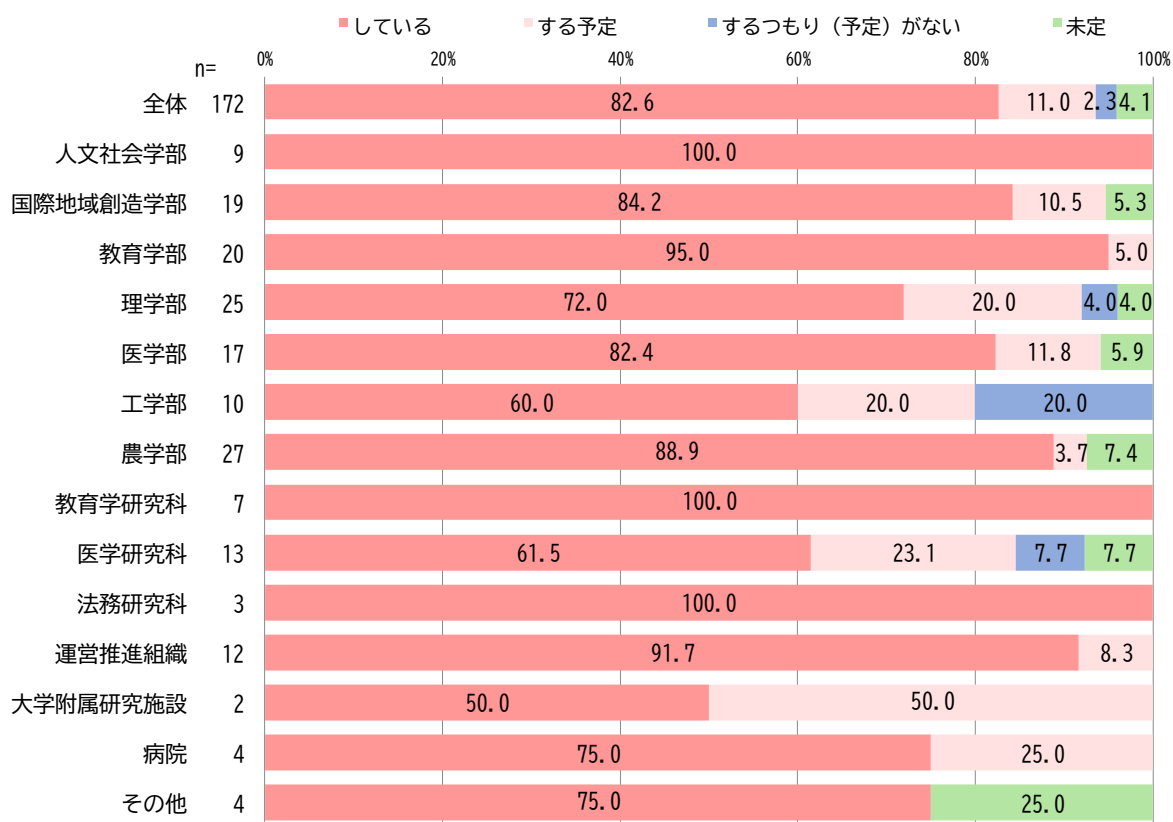


図表 23 経年比較 SDGs の課題解決の取組＜職員＞



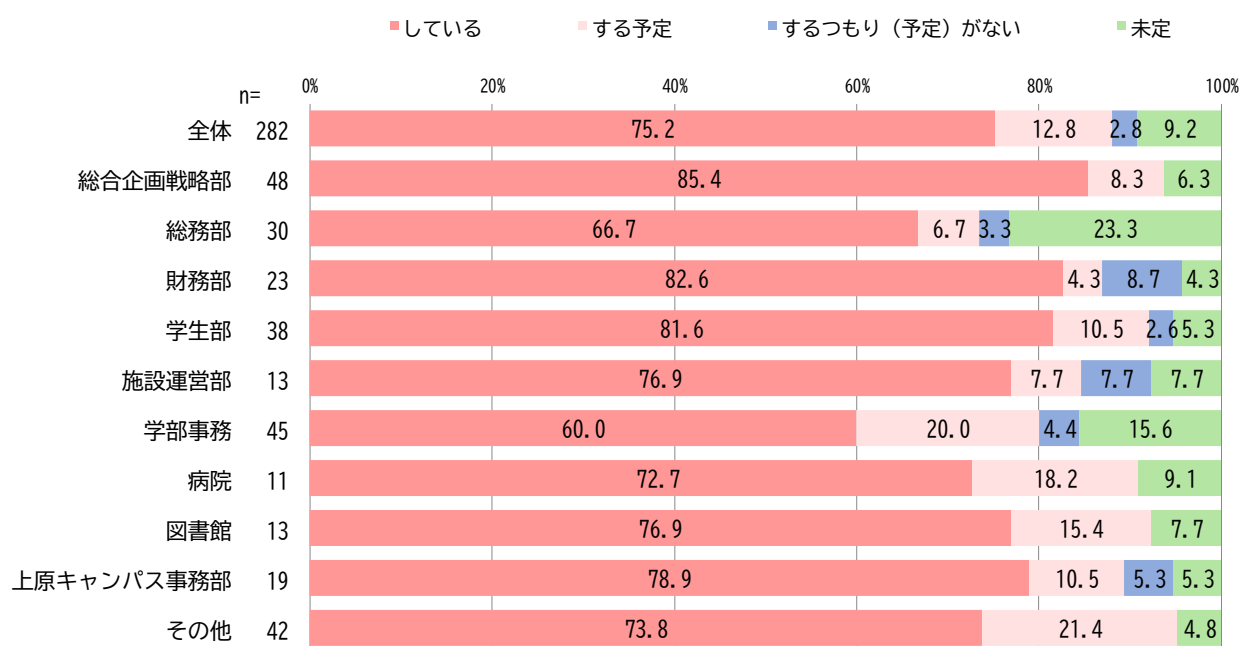
教員

図表 24 所属別 SDGs の課題解決の取組



職員

図表 25 所属別 SDGs の課題解決の取組

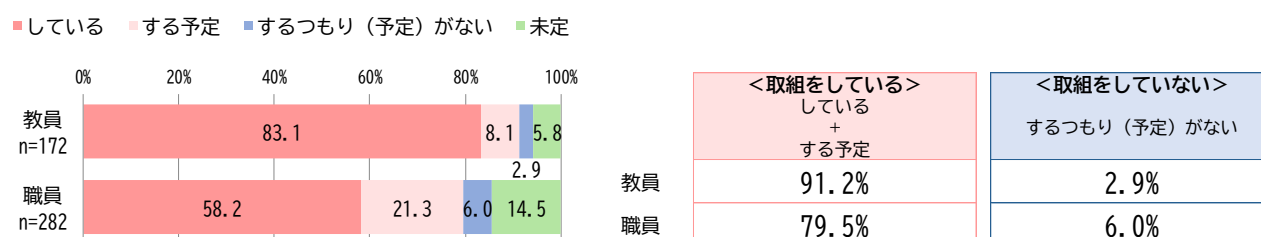


⑤ SDGs に合わせた自身の取組との関連付けについて

教員・職員

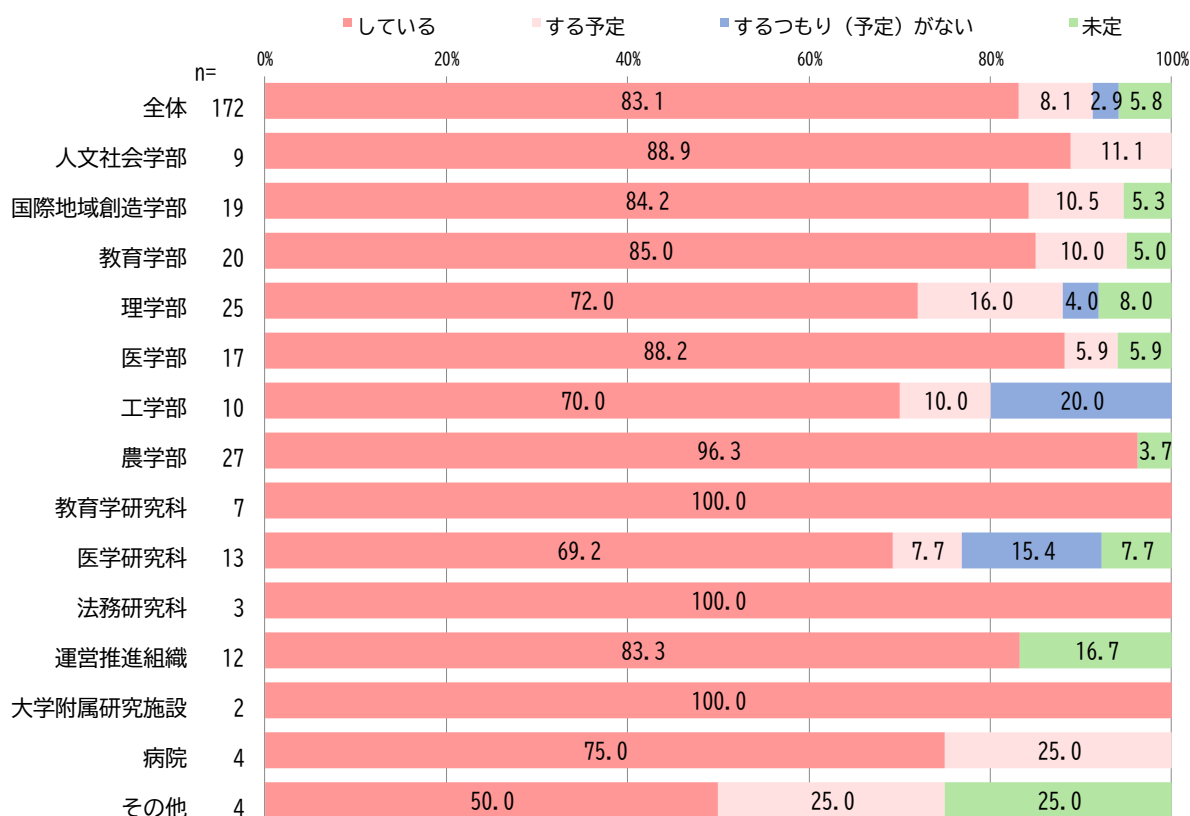
自身の取組の関連付けについて、教員で「している」が 83.1%、職員が 58.2%となっており、「するつもり（予定）がない」は、職員が 6.0%と教員より 3.1 ポイント高く、職員各々の業務との関連付けができていないことが想定されます。

図表 26 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け＜教員・職員＞



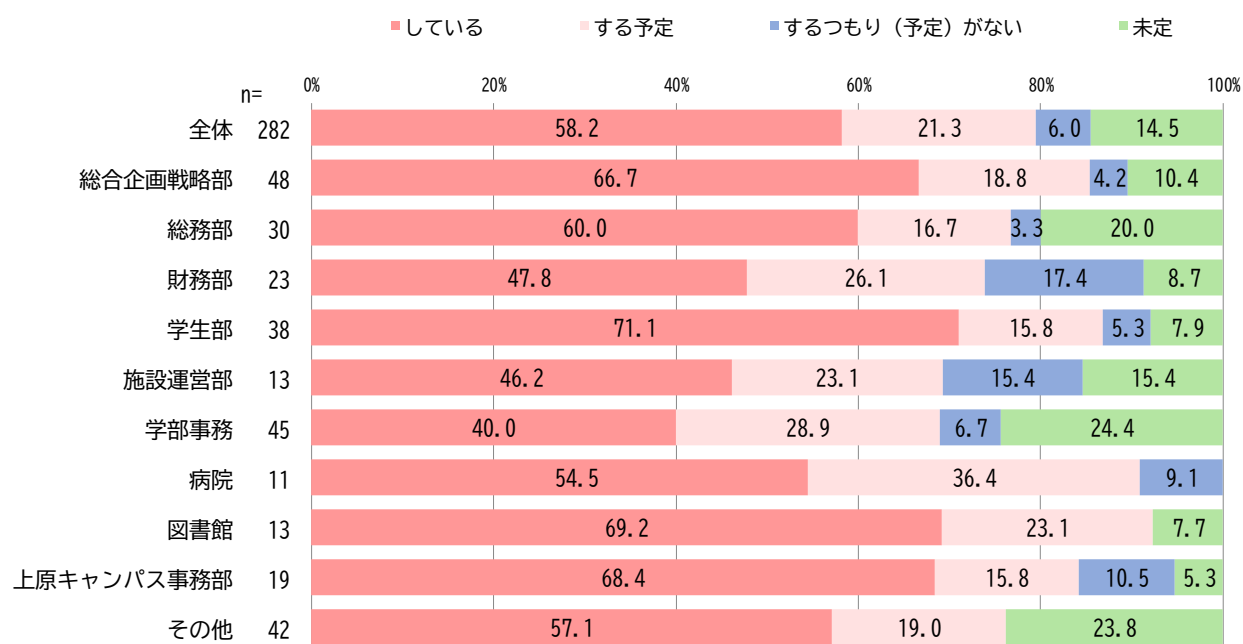
教員

図表 27 所属別 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け



職員

図表 28 所属別 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け



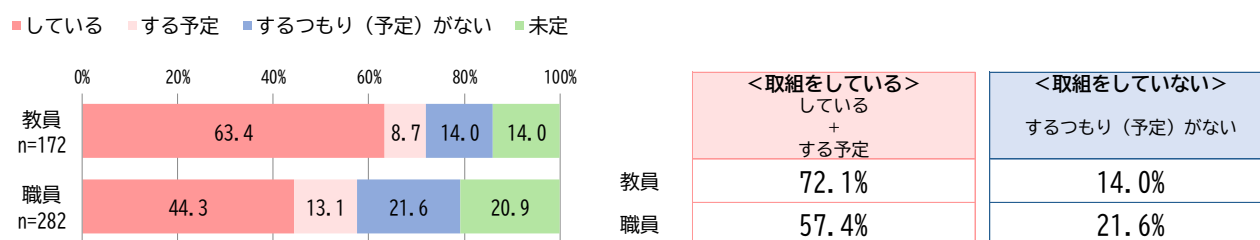
⑥ 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換

教員・職員

同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わすことについて、教員は「している」が 63.4%、職員は 44.3%となっています。一方、職員の「するつもり（予定）がない」が 21.6%と教員より高くなっています。

教員と職員の役割が異なる為、SDGs への関心の性質が異なることが想定されますが、教職員の会議等でもデジタル・データで配布・閲覧、研究棟の水や電気を大切にする、島嶼地域の持続可能な環境への配慮など、大学でのシンポジウムや研修等を通して教職員が意見交換を行う場を多く提供する等、意識啓発を図る環境づくりが重要です。

図表 29 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換＜教員・職員＞



(4) 重点的に取り組むべき目標

① SDGs の 17 の目標で特に重要であると思う目標

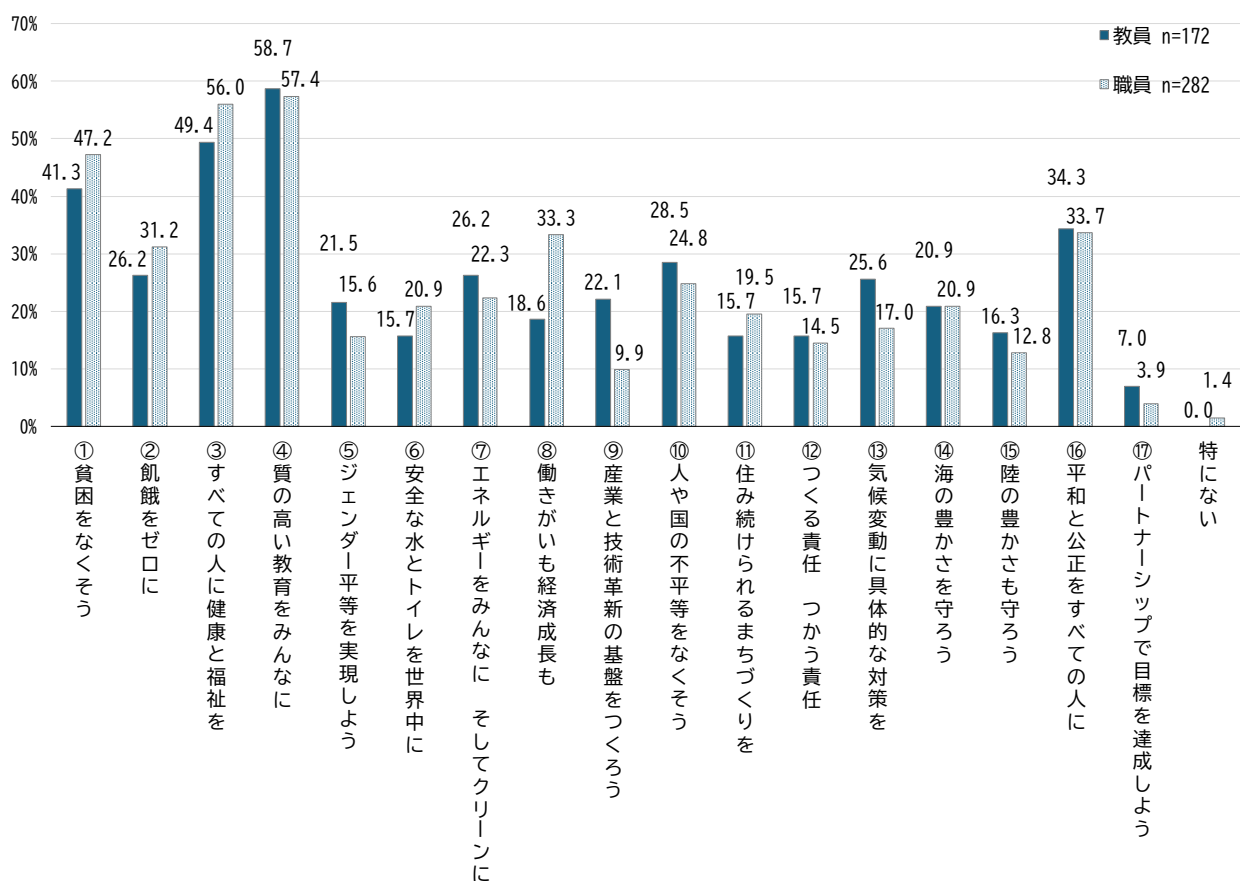
教員・職員

割合が高い順に「④質の高い教育をみんなに」、「③すべての人に健康と福祉を」、「①貧困をなくそう」及び「⑯平和と公正をすべての人に」が教職員ともに上位を占めています。

教員の特徴は、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」、「⑬気候変動に具体的な対策を」について割合が高く、職員は教員と比較し、「⑧働きがいも経済成長も」、「⑥安全な水とトイレを世界中に」の割合が高くなっています。

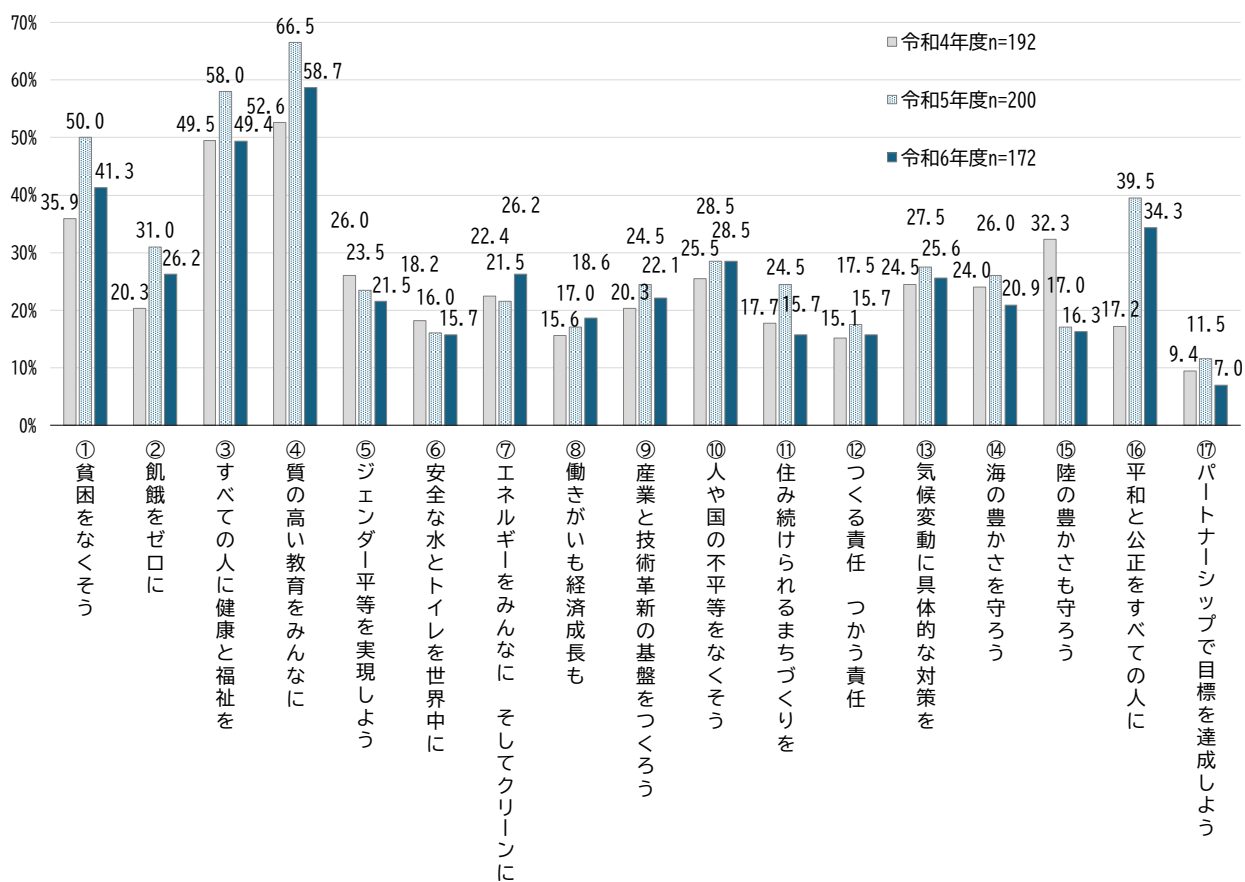
教職員で重要である目標が異なる部分もあることから、各役割に応じた取組事例などの PR を兼ねた教職員への周知、学外の多様なステークホルダーとの連携などの紹介を通じて、SDGs の理解度や実践度を高めることが重要です。

図表 30 SDGs の 17 の目標で特に重要であると思う目標＜教員・職員＞



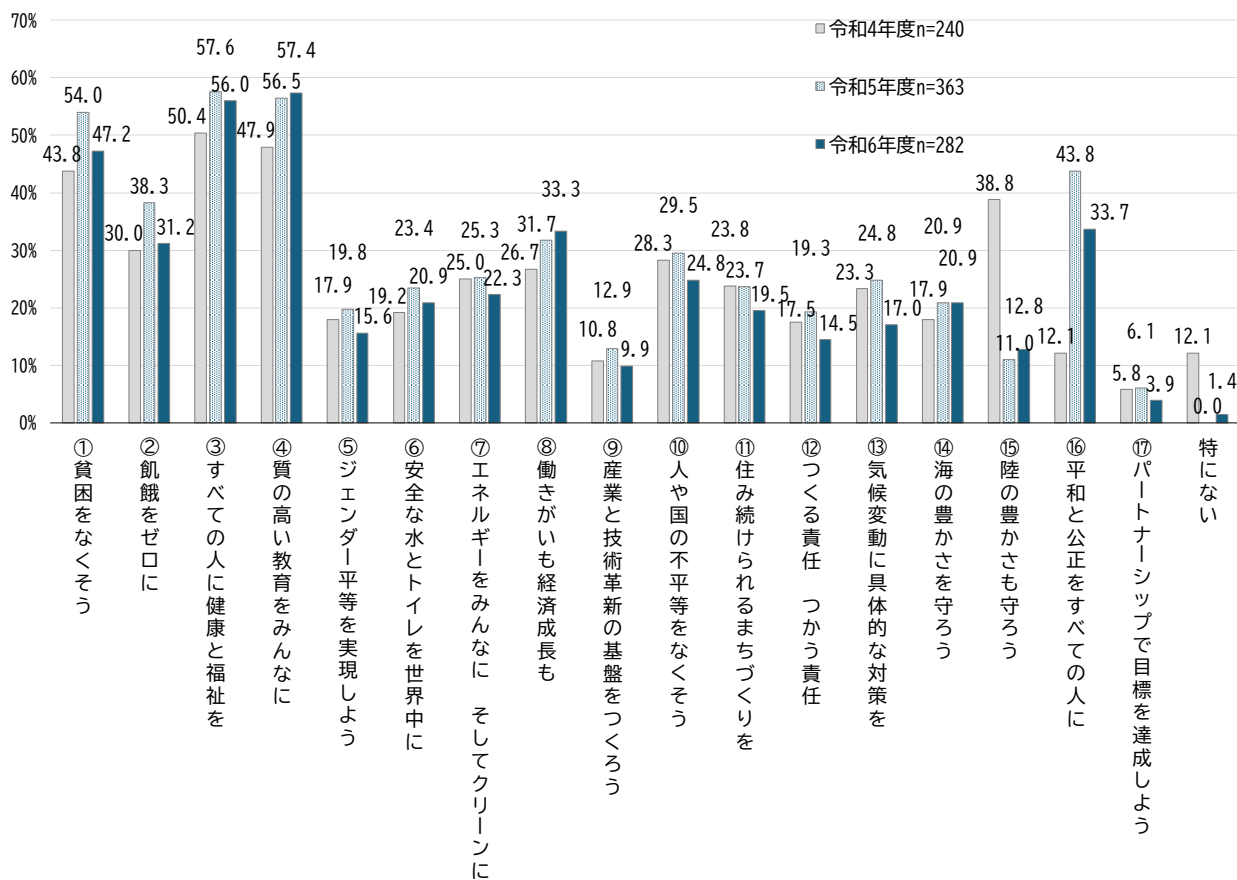
教員

図表 31 経年比較 SDGs の 17 の目標で特に重要であると思う目標<教員>



職員

図表 32 経年比較 SDGs の 17 の目標で特に重要であると思う目標<職員>

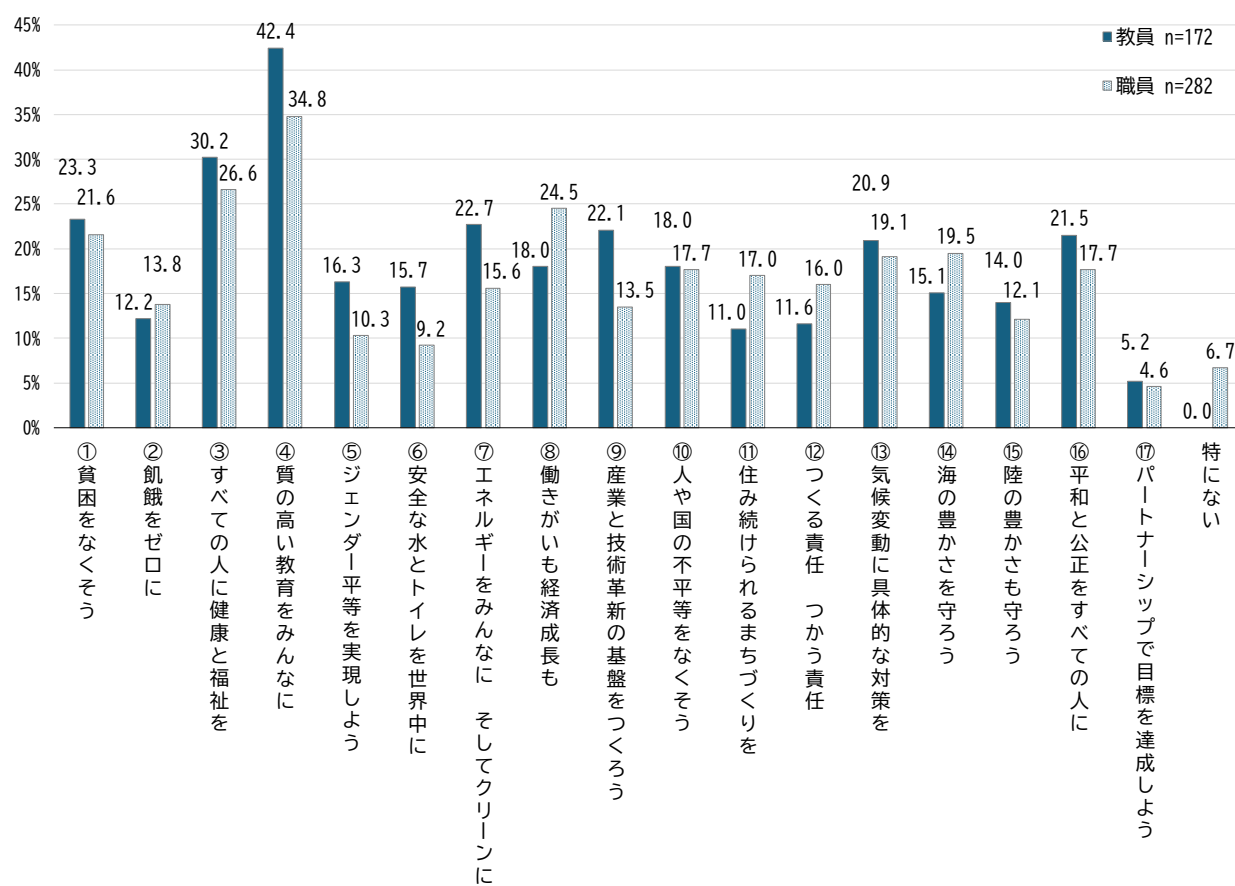


② SDGs の 17 の目標で内容について深く調べてみたい目標

教員・職員

教員については、「④質の高い教育をみんなに」、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」が職員の割合と開きがあり、より関心が高く、職員については、「⑧働きがいも経済成長も」、「⑪住み続けられるまちづくりを」が教員と比較して関心が高くなっています。

図表 33 SDGs の 17 の目標で内容について深く調べてみたい目標＜教員・職員＞



③ SDGs の 17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標

教員・職員

教員・職員ともに、「④質の高い教育をみんなに」が最も高い割合になっています。

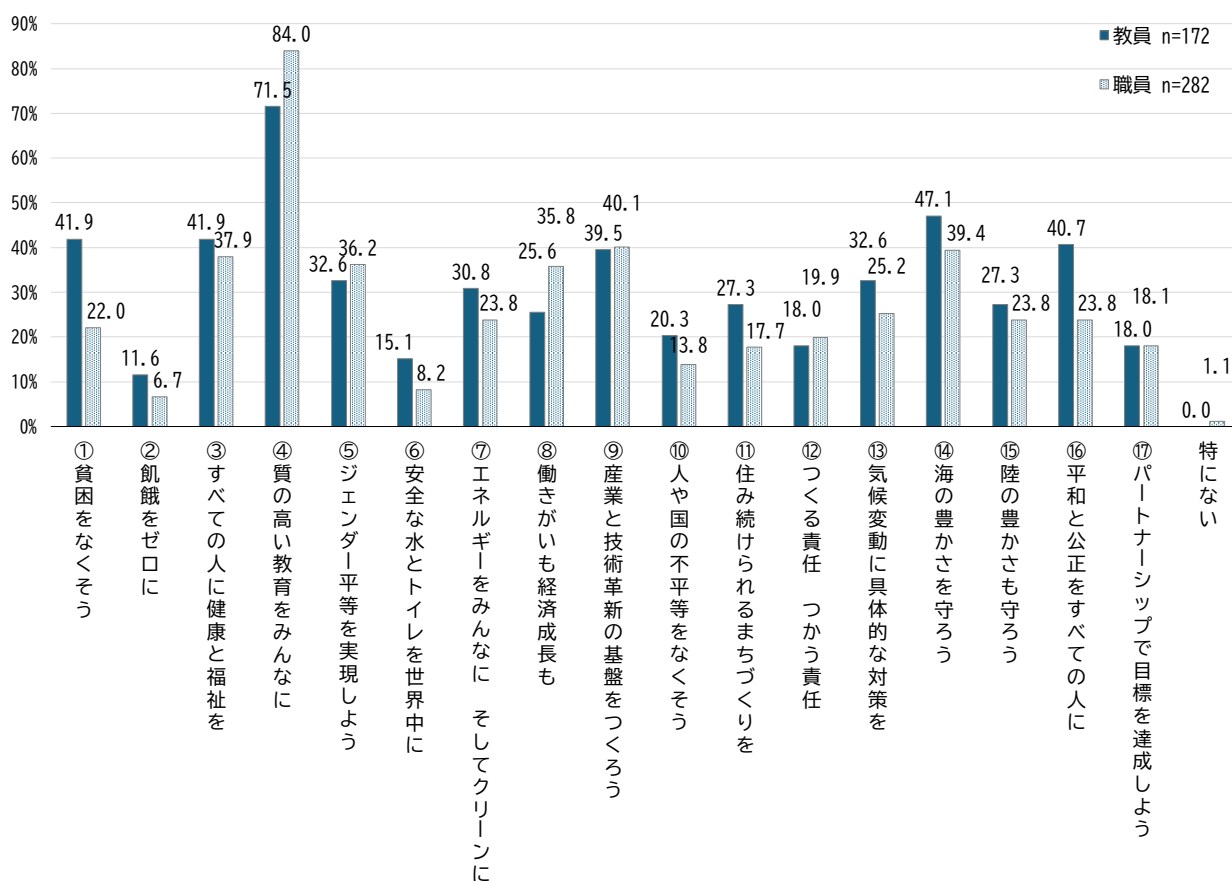
教員については、「④質の高い教育をみんなに」に次いで、「⑭海の豊かさを守ろう」が 47.1%、「①貧困をなくそう」、「③すべての人に健康と福祉を」が 41.9%となっています。

職員については、「④質の高い教育をみんなに」に次いで、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」が 40.1%、「⑭海の豊かさを守ろう」が 39.4%となっています。

「①貧困をなくそう」は教員が 41.9%に対して職員は 22.0%と 19.9 ポイントの開きがあり、教員と職員で認識が異なっています。

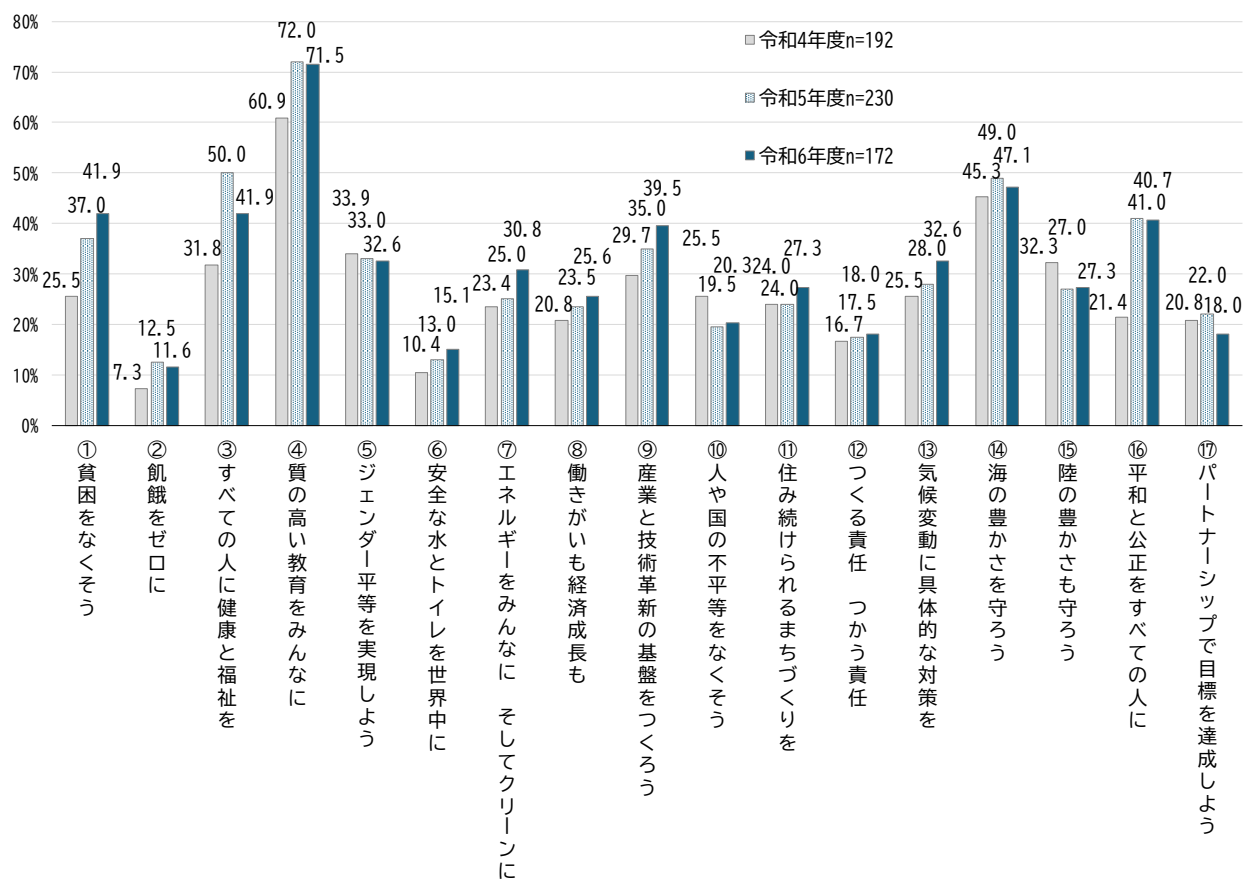
一方、亜熱帯の島嶼に位置する本学の特徴となる「⑭海の豊かさを守ろう」は教職員ともに 4 割程度となっています。

図表 34 SDGs の 17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標<教員・職員>



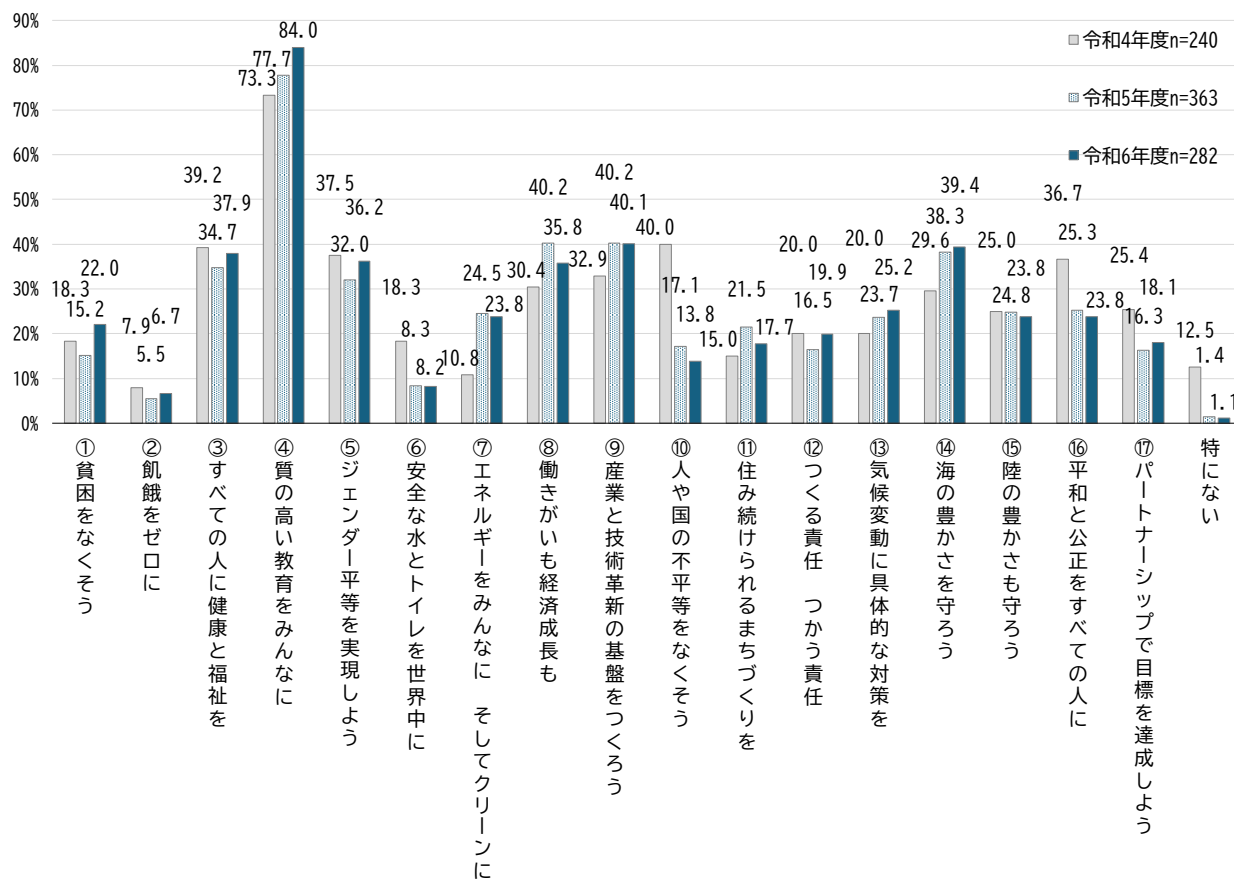
教員

図表 35 経年比較 SDGs の 17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標＜教員＞



職員

図表 36 経年比較 SDGs の 17 の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標＜職員＞



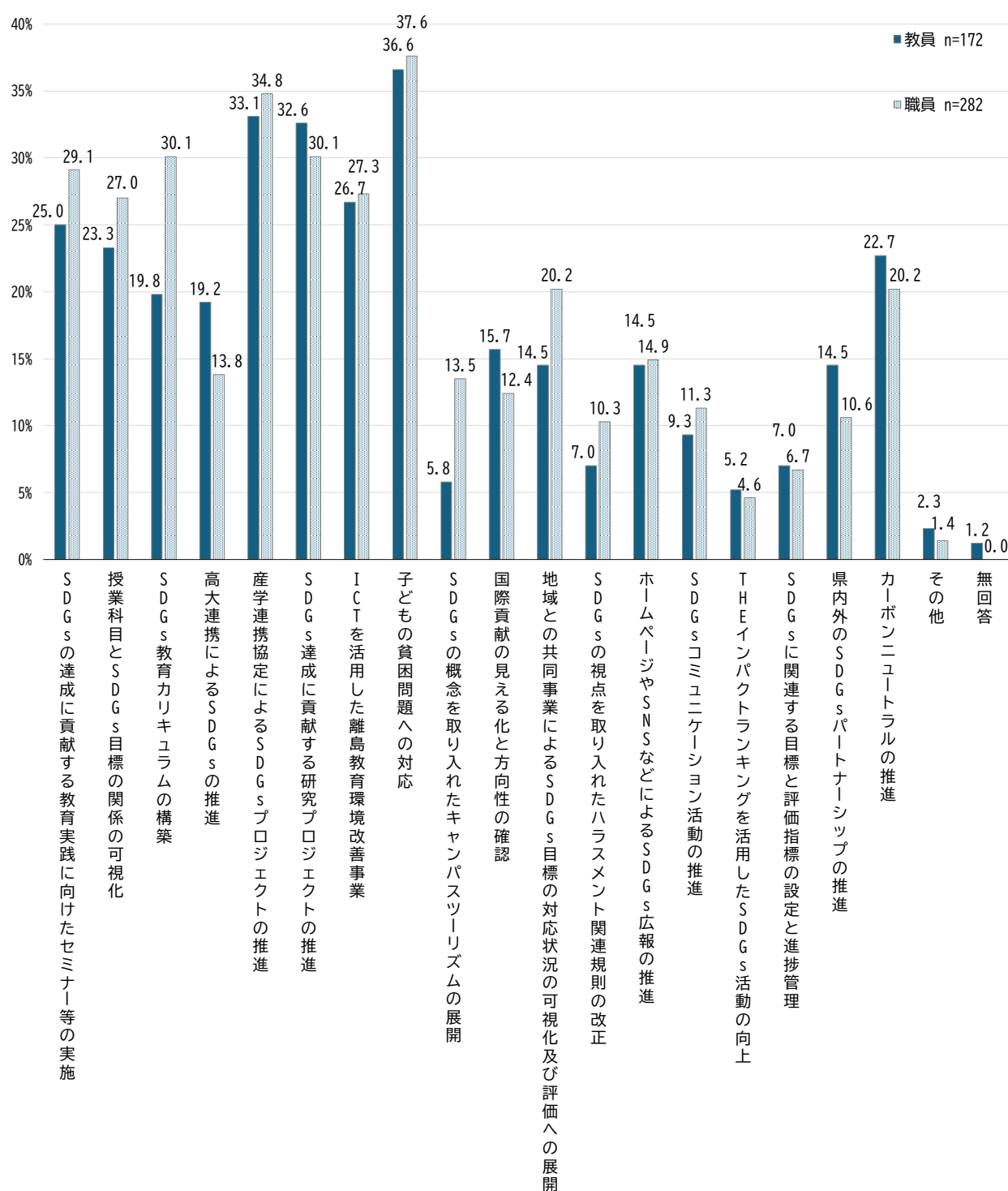
④ 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目

教員・職員

「子どもの貧困問題への対応」が教員 36.6%、職員 37.6%で上位となりました。

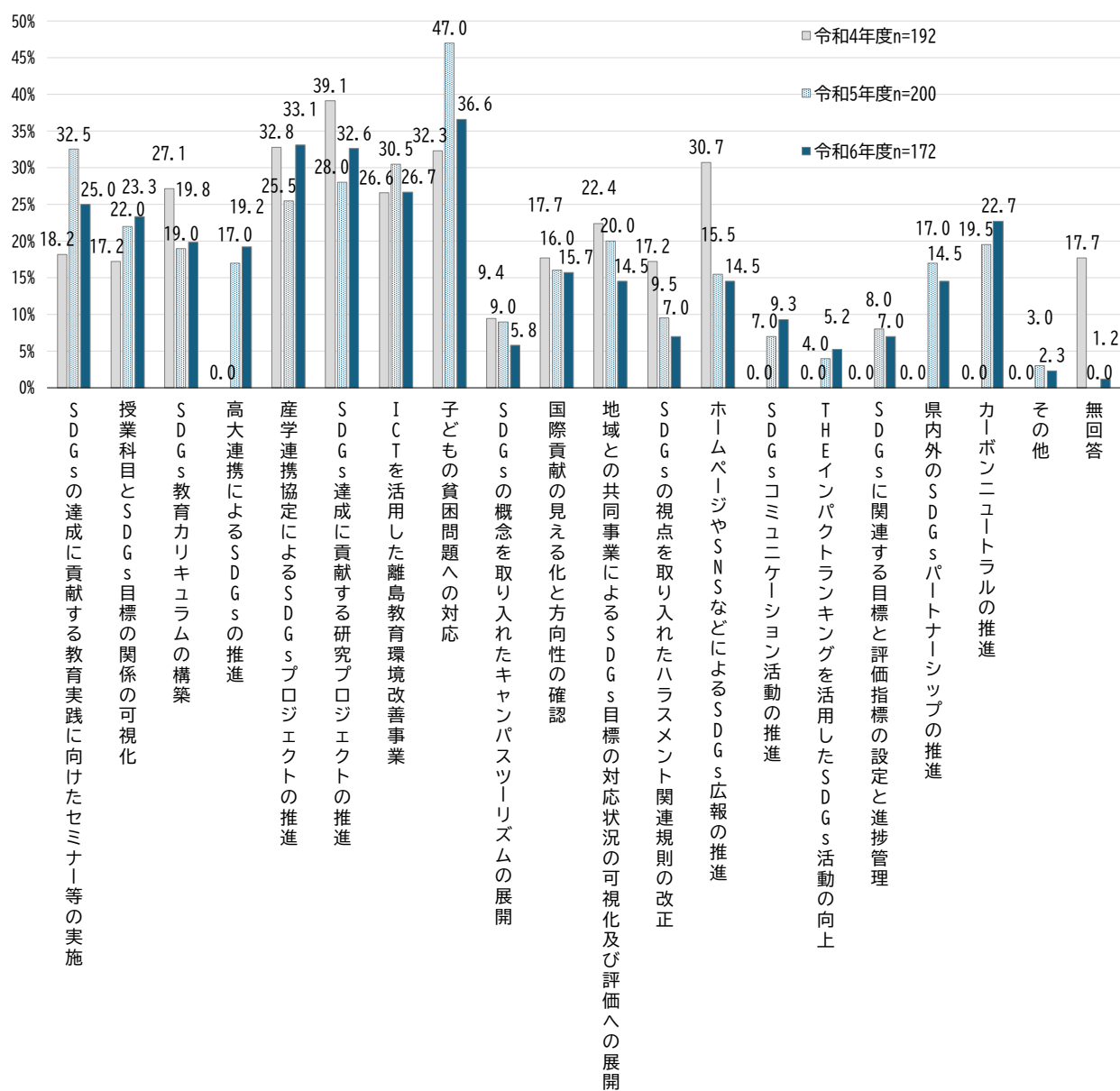
教職員が重点的に取り組むべきだと考えている項目を考慮し、SDGs 推進本部における今後の取組を推進していくことが重要であると考えます。

図表 37 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目＜教員・職員＞



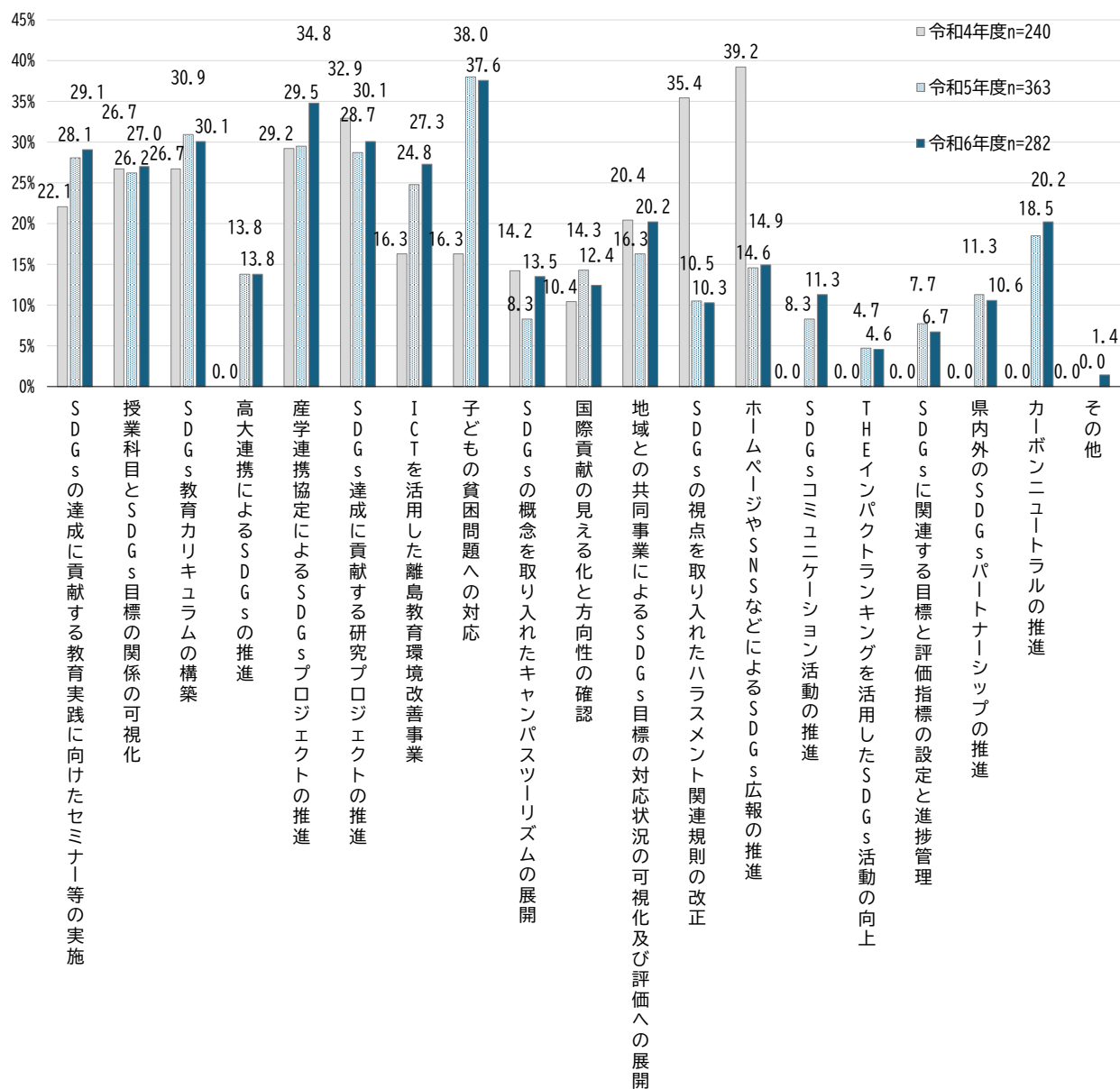
教員

図表 38 経年比較 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目＜教員＞



職員

図表 39 経年比較 琉球大学 SDGs 推進本部が重点的に取り組むべきだと考える項目＜職員＞



(5) 教員とSDGs との関わり

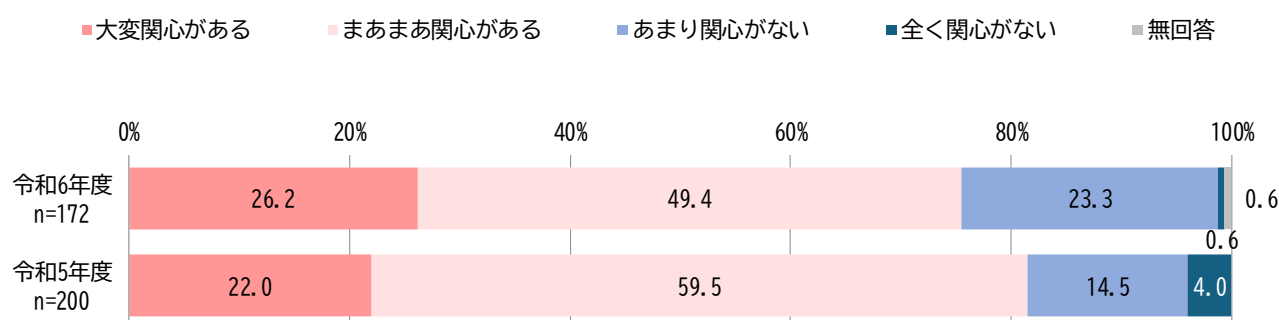
① SDGs に関連する科目の提供

教員

SDGs に関連する科目の提供について、「関心がある」教員（大変関心がある（26.2%）＋まあまあ関心がある（49.4%））は、75.6%となっており、令和5年度と比較すると5.9ポイント関心度が下がっています。

所属別では、「関心がある」としている部局が多い一方、「関心がない」と回答した教員が多い部局もあり、関心が低い理由の調査も必要と考えます。

図表 40 経年比較 SDGs に関連する科目の提供への関心度



図表 41 所属別 SDGs に関連する科目の提供への関心度

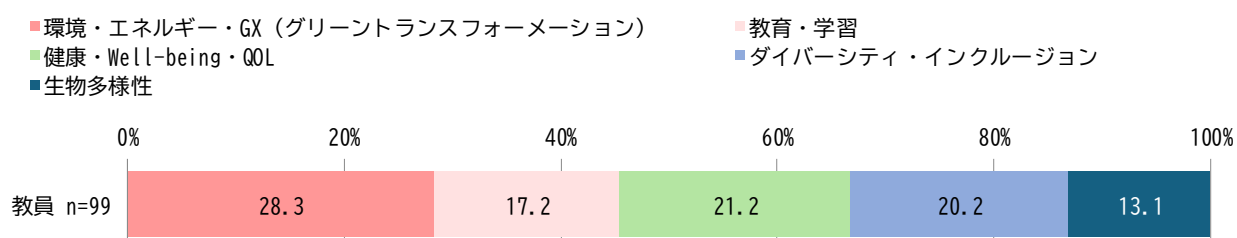
	n	SDGsに関連する科目の提供への関心(%)				
		大変関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	172	26.2	49.4	23.3	0.6	0.6
人文社会学部	9	0.0	88.9	11.1	0.0	0.0
国際地域創造学部	19	36.8	47.4	15.8	0.0	0.0
教育学部	20	25.0	55.0	20.0	0.0	0.0
理学部	25	16.0	44.0	40.0	0.0	0.0
医学部	17	29.4	58.8	11.8	0.0	0.0
工学部	10	20.0	30.0	40.0	10.0	0.0
農学部	27	22.2	55.6	18.5	0.0	3.7
教育学研究科	7	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0
医学研究科	13	23.1	38.5	38.5	0.0	0.0
法務研究科	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
運営推進組織	12	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0
大学附属研究施設	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
病院	4	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
その他	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0

② SDGs に関係している研究テーマ

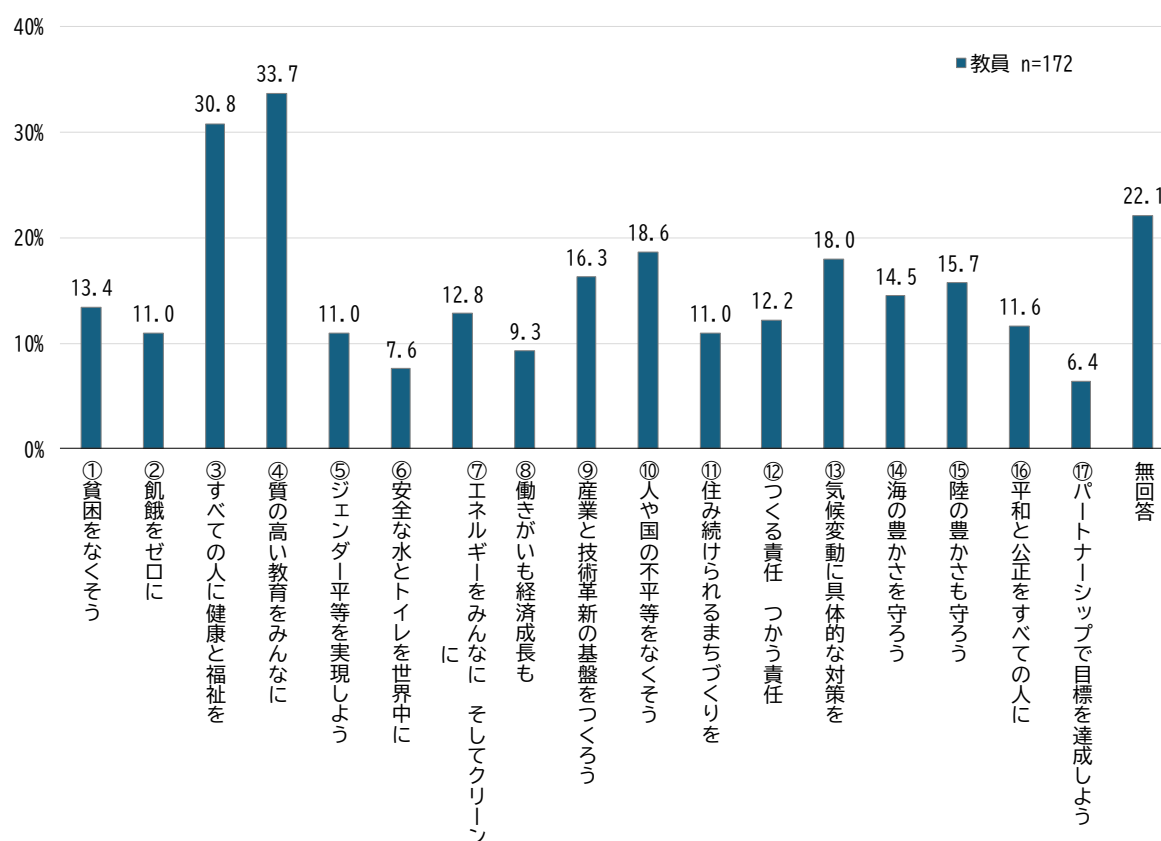
教員

研究テーマを5つの分類に分けて集計したところ、「環境・エネルギー・GX（グリーントランスフォーメーション）」が28.3%で最も高く、次いで、「教育・学習」が17.2%となっています。

図表 42 SDGs に関係している研究テーマ



図表 43 研究テーマが関連している SDGs ゴール

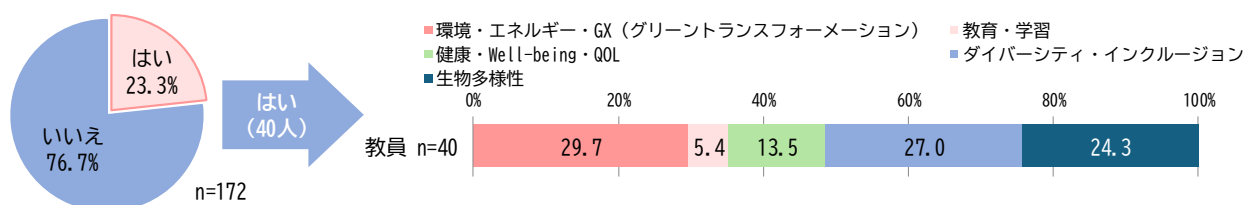


③ 産学官連携での共同・受託研究

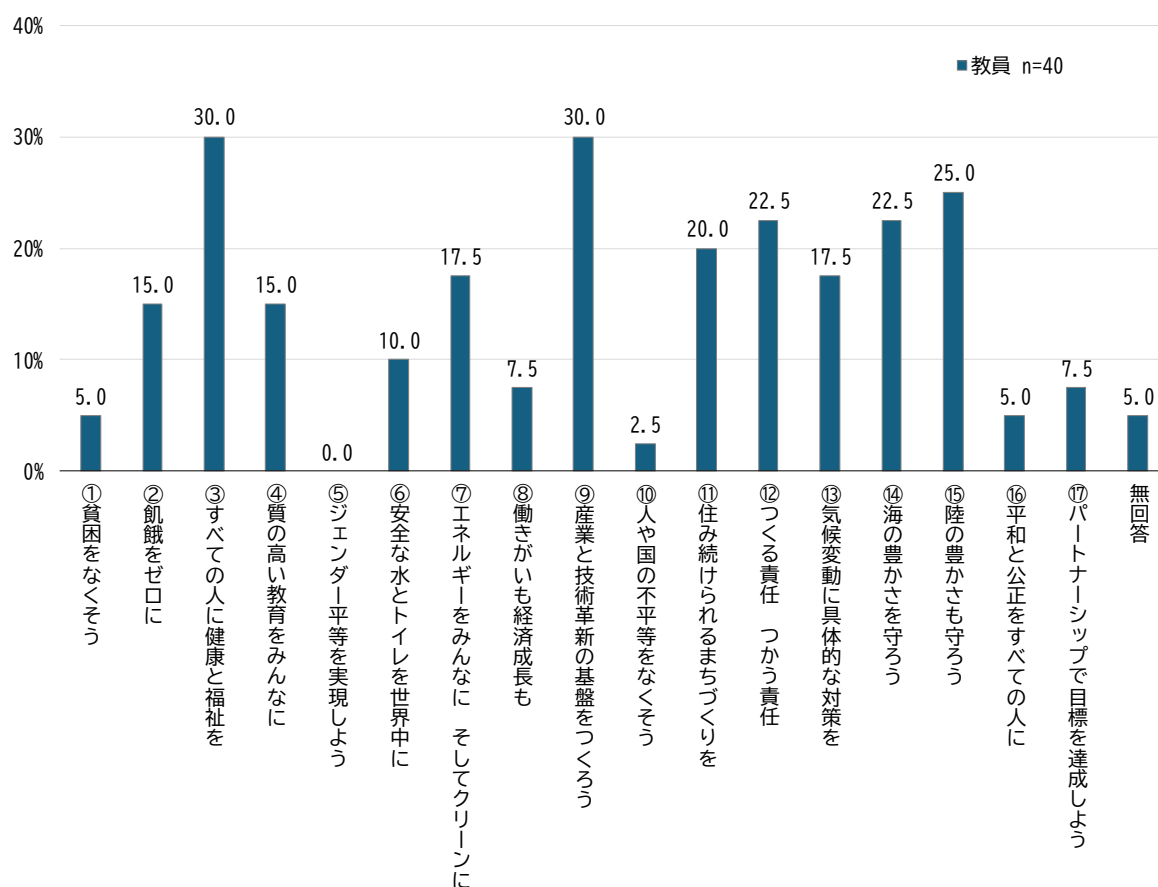
教員

「あなたは産学官連携で共同・受託研究がありますか。」という設問に対して、「はい」との回答は23.3%、「いいえ」は76.7%で、「いいえ」が高い結果となります。

図表 44 SDGsに関連する産学官連携



図表 45 共同・受託研究テーマが関連している SDGs ゴール



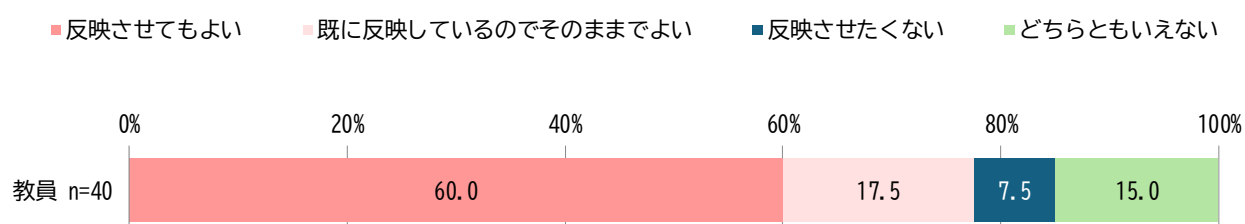
④ 研究者データベースの SDGs アイコン設定の意向

教員

研究者データベースの SDGs アイコン設定については、「反映させてもよい」が 60.0%、「既に反映しているのでそのままでよい」が 17.5%となっており、アイコン設定に前向きな傾向が見られます。

「どちらとも言えない」の 15.0%の教員への理由等を聞き取り、SDGs が社会に浸透している現状から、多様なステークホルダーとの連携等の推進において設定率の向上を考えていく必要があります。

図表 46 研究者データベースの SDGs アイコン設定の意向



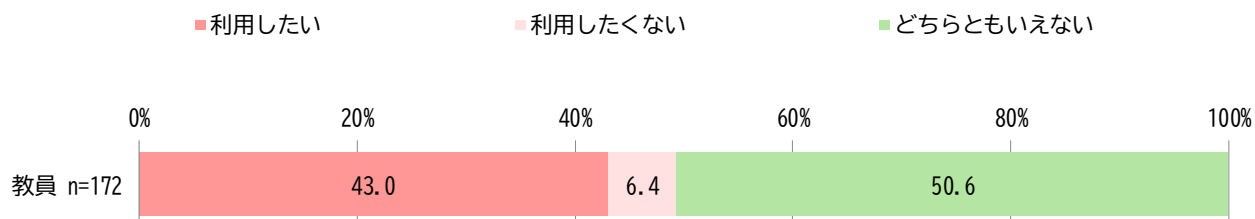
⑤ SDGs 達成に貢献する研究テーマへの支援制度の利用の意向

教員

支援制度の利用の意向については、「利用したい」が 43.0%ですが、「どちらとも言えない」が 50.6%を占めています。

支援制度の内容や活用方法、メリットについて、丁寧に説明することで、利用したいと思う研究者が多くなることが想定されます。

図表 47 SDGs 達成に貢献する研究テーマへの支援制度の利用の意向



(6) 今後の SDGs の取組に関する意見

① 琉球大学における SDGs に関する今後の取組

教員

- 教育、研究、診療等すべての活動で大学から出てくるゴミの削減。プラスチックごみの削減、リユースシステムの構築（事務用品、研究試薬、備品等）。
- 全学組織として学生ボランティア等の活動を行い、学内外に発信する。
- SDGs は 2030 年までのものであり、遠からず次の目標に移ることを考慮に入れて取り組んでほしい。
- なにがしかのインセンティブとセットにして部局に取組みを促す。
- 教職員全体の意識の向上を。少なくとも研究者データベースには全教員が関連する SDGs アイコンを掲げるべきだと思います。
- SDGs を意識した教育実践の実現。
- SDGs 設定から 9 年たち、過去のものになる可能性を見据えて先に進めるべき。イデオロギーだけの温暖化対策から脱却しないとならない。
- SDGs の中に入らないと思われる重要な事もあるので、それらを損なわないバランスの取れた取り組みが求められます。
- 現状、琉球大学はバランスをとって実施していると思われるので、加速を意識する必要はないという意見を持っていますが、それは不勉強でしょうか。
- 全部署が連動した動きをすることが重要だと思います。
- 取り組んでいる教員や部局への支援がほしいです。
- 新執行部でのジェンダーバランスへの取組に期待しています。
- SDGs に達成に貢献する研究プロジェクトの推進。
- SDGs にある目標を、わざわざ問題にし、教育する必要がある国に日本はなってしまったのでしょうか?と残念に思っています。また、科学的根拠がはっきりしていないものも含まれていると考えています。
- 学生への教育の中で SDGs に対する批判的な見方の提示も必要であると感じる場面が、授業やゼミの中での学生とのやり取りの中で多い。
- 琉球大学が何かの取組を考える際に、SDGs のどれに当てはまるかを先に考えるのではなく、取組を考え、SDGs のどれとどれに関連するかを考えるべきである。結局、SDGs は全ての課題を網羅しているので、琉大の取組が何であれ、SDGs のどれかには当てはまるはずである。琉球大学や沖縄にとって必要な取組を真っ先に考えることが重要だと思う。
- SDGs を包括的に学ぶことは必要ですが、それだけでは何の解決にも繋がらないことを学生だけでなく教職員も十分に認識する必要があります。それぞれの高度な専門性があるからこそ、SDGs 課題の解決策が見出せるのであって、目標の理解だけでは何の解決にもなりません。SDGs の課題解決に寄与できる人材を育てることが今後の琉球大学では必要ではないかと思っています。
- 沖縄を元気にする持続可能な取組を推進してほしいです。
- 間違った内容もあるので、推進しない方がよい。

3.調査結果：教員・職員

- 地域社会への貢献を目に見える形で進めて頂ければと考えます。
 - SDGs の理解、エネルギーと経済の関係、課題発見・解決実践（アントレプレナーシップ教育）を連携させた教育を行うのが必要と考えています。
 - 本学でこれまでに行われている研究や実践の多くが SDGs と関連あると思います。SDGs とあえて紐づけしていない方もいらっしゃると思うので、その紐づけを行うべきだと思います。
 - SDGs という言葉の認知度が高まり、琉球大学関係でも持続可能な社会の実現を意識する人が増えたことはとても良いことだと思います。一方で、持続可能な取り組みの検討や検証には、試行錯誤や長期にわたるデータ収集なども必要です。短期間の目先の成果や利益を追求するだけでなく、数十年という長いスパンで研究や教育の環境を整備することが長期的な SDGs の達成には近道になると思います。僭越ながら。
 - 教育研究機関として、SDGs に関する活動を通して、基本的な知識を学生に伝える機会を増やす必要がある。
 - どんどん推進をお願い致します。
 - 人権分野の取組が弱いと思います。
 - 琉球大学の SDGs が、Leave No One Behind を本気で求めるものになってほしいです。すでに行なっている研究や活動に資金を割り当ててほしい。
- SDGs は世界的に重要な行動目標であり、大学として様々に実践していくことは必要です。しかし、学生が何らかの SDGs を実践していればそれで良いという安易な了解に陥らないように教育していく必要があると感じます。SDGs だけでは人類社会が直面する問題の解決には至らないこともしっかり伝え、考えさせるべきだと思います。今後も引き続き、SDGs について情報収集し取り組みたいと思います。

② SDGs に関する主な意見

職員

- 資料の差し替え等で紙を無駄にした時等に SDGs ではないなと感じるので、会議のペーパーレス化を進めて欲しい。
- 継続的に SDGs に関する取組を行うことも重要ですが、2030 年に向けてどう成果を取りまとめるのか、SDGs の次の概念が出てきたときに同じ体制で対応するのかなど検討が必要だと考えます。
- SDGs に向けた取組を新たに行うより、本学で既に行われているものを見直し、SDGs に分類することも大事だと思います。
- SDGs の推進の割には、紙の印刷が多すぎます。出張等の決裁のデジタル化をもっと推進してほしい。資源の無駄遣いです。
- 一般の方が参加できるような取り組みをたくさん企画開催してほしいです。
- SDGs は、必要だけれども忘れやすい目標だと思います。何かを考える（検討する）時に SDGs の表を常に手元に置くなどして、検討の基本理念として取り入れて行ければと思います。
- 本学の SDGs の活動について、本学公式 HP や環境報告書に記載されていることを本学勤務になってから知った。
- 基本的に HP は「情報を知りたい人」が自分で調べて行きつくものであるため、「興味のない人」向けには情報が届かない構造になっている。実際、私も業務でかかわるまでは本学の SDGs の活動について調べたこともなかったし、目にすることもなかった。
- 今後は、SDGs に関心のない人にも目に触れてもらえるような広報を考える必要があると感じた。（例えば X や Instagram など流行りの SNS を活用するなど）
- 沖縄県は、他県と比較して子どもの貧困や母子家庭の貧困問題が深刻であり、平和に対する意識が高い地域だと思います。これらの社会課題に対する取り組みや、これまで実施してきた活動をより社会にアピールしていけると良いのではないかと思います。
- また、沖縄県の環境的特性を生かした取り組みとして、例えば COI-NEXT 陸上養殖プロジェクトのように、SDGs と直結する活動が既に進行しているものがあると思うため、これらのプロジェクトをさらに発展・推進することで、沖縄らしい持続可能な社会の実現に貢献できると考えます。
- 格上げされて SDGs 推進本部が設置されるなど、SDGs 推進の体制が確立されてきており、今後の取組が期待されます。
- THE インパクトランキングで本学の課題が明確になっているかと思いますので、そこに取り組んでいただけるとよいと思います。
- 研究を重ねていき人々に安心で安全な薬を提供出来るようになってほしいと思います。
- そうしていくと全ての人に健康と福祉を得られると思います。
- 個々の取り組みについて PR（発信力）不足ではないかと思います。
- 本学の HP での発信強化、学長と報道関係者との懇談会での取り組みのアピール（定例で）、公開講座・講演会・報道番組等を利用して学外への現取り組み状況の広報を強化すれば学内だけではなく、学外からの意見・希望が広く集まり、大学としての今後の取り組みも見えてくるのでは。

3. 調査結果：教員・職員

- 貧困問題が大きな沖縄において、重点的にそこに取り組んでいるという情報発信をすべく、そこに対応する取組を行うべきだと思います。テレビなどでは「SDGs＝エコ」のような取り上げられ方が多いですが、「貧困（特に子どもの）改善⇒教育機会均等⇒低賃金スパイラルからの脱却⇒家庭環境・雇用環境の改善」というようなサイクルを沖縄で生み出すために琉球大学が果たせる役割は少なくないと思うので、全学的・体系的に取り組む、THE ランキングなど対外的なアピールにも使えるようになるといいなと思います。
- 自分自身の勉強不足もあり、個人の行動につながる取り組みがあるとよい。
- SDGs 推進本部が設置されて以降、各部門で様々な取組を実施・推進してきたことは確かな実績を残されたと思いますが、限られた人員・予算等、大学運営が逼迫している（していく）状況を鑑みると、今後は、設問 16 でお聞きされているように、重点的に取り組むべき事項を選定し、そこに特化してアプローチされてはどうかと思います。
- 2024 年 6 月発表時点で SDG14（海の豊かさを守ろう）が 8 位、SDG15（陸の豊かさを守ろう）が 14 位なので、海に囲まれている沖縄、その中にある大学、という地理的優位性を活かす研究内容と SDGs が結び付けばいいかなと感じます。
- ZEB に取り組んでいくと良いと思います。
- 通学、通勤の交通網を増やして、自動車の排ガス抑制につなげてほしい。
- いろんな人に夢・希望を持たせる事ができる琉球大学であり続けて欲しいです。
- 各構成員が常日頃から SDGs を意識し、周囲にも啓発活動を行うことで取組が広がると思います。
- SDGs はそれぞれのバランスの均衡を保つことも重要な取り組みだと思っています。SDGs のために業務量が増えたり、無駄に制限がかかってしまうのは本末転倒なので、目的と手段がごっちゃにならないようバランスよく取り組んでもらいたいです。
- 地域と連携・協力して取り組むことがとても重要だと感じています。こども達には体験を通して、SDGs について幼い頃から意識づけまたは興味を持ってもらう継続的な取組みも必要かと考えています。
- フィードバックの無いアンケート、費用対効果の乏しいシステムの導入、超過勤務を伴う準備、等々の廃止又は縮小。
- 大学として出来る事は多々あると感じている。
- 裏紙の使用やオンライン決済を拡大して紙の使用削減。
- 歩道やシャワー部屋を整備して自転車通勤の推進。
- 生協でハラルフードの販売によるイスラム教学生も安心して食べる事ができる食事の提供
- 意識変革を起こさなければいけないのは、学生ではなく、教職員だと思う。
- ルールや規則を変えず、「今まで通りが良い」という現状維持を選んでいては琉球大学で SDGs の推進はされていかないと感じている。
- SDGs は社会に出てから様々な分野において関連があるので、教育を通して学生が重要性を認識し、行動できる人材育成に取り組むことが重要であると思う。
- 経済的な理由や家庭環境によって学業生活に支障をきたしている学生が少なくないのでどんな支援があるのか積極的に周知していきたいと考えています。

3.調査結果：教員・職員

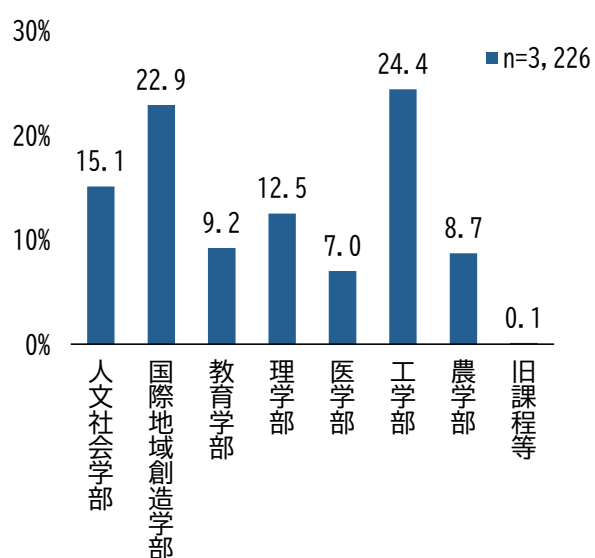
- SDGs への大学としての取り組みをもう少し分かりやすく周知してほしい。そこに向けて誰もが何ができるのか具体的に簡単な方法を発信できるようにしてほしい（もっとテレビや新聞・ラジオ・SNS 等を活用して）
- SDGs と掲げていれば OK みたいな感じもある。大学が真摯に業務に取り組んでいれば、SDGs の目標というのは大学にとって当たり前の目的なのではないかとも思う。それを敢えて、掲げなければならない現状が既に問題では？
- SDGs への取り組みをもっと身近に感じられるようになったら良いと思う。
- 病院全体としての方向性の確認、各科の方向性を同じにする取り組み。
- 定量的な目標値の設定、取組結果の見える化、数値化。
- ICT で学生が世界で通用するようなレベルにしてほしい。
- 女性の管理者が増えてほしいです。
- SDGs は、単体で行う活動ではなく、日々の業務に落とし込んで目標を達成することだと思います。「働きがいも経済成長も」や「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」などは、長い目で見た包括的なシステムの導入などを通して、職員の労働時間の短縮や電気代の節約、職場環境の改善による人件費の節約などにつながることでいいと思います。このような具体的な業務に落とし込んで取り組んでいく必要があると思います。分かっているようで深掘りしないと分からないことも多いので、地域に広く周知することが大事ではないかと思います。

4. 調査結果：学部学生・大学院学生

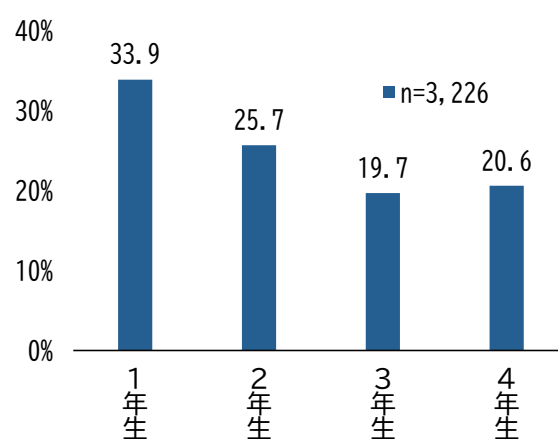
(1) 回答者属性

学部学生

図表 48 学部

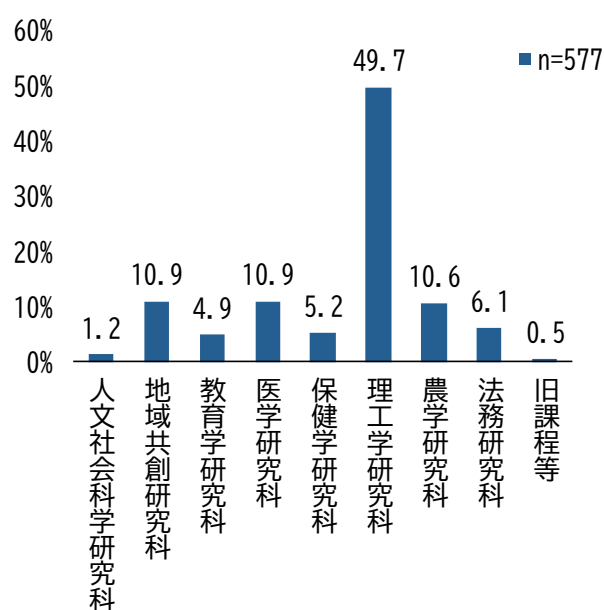


図表 49 学年



大学院学生

図表 50 研究科



(2) SDGs の理解度

① SDGs の理解度

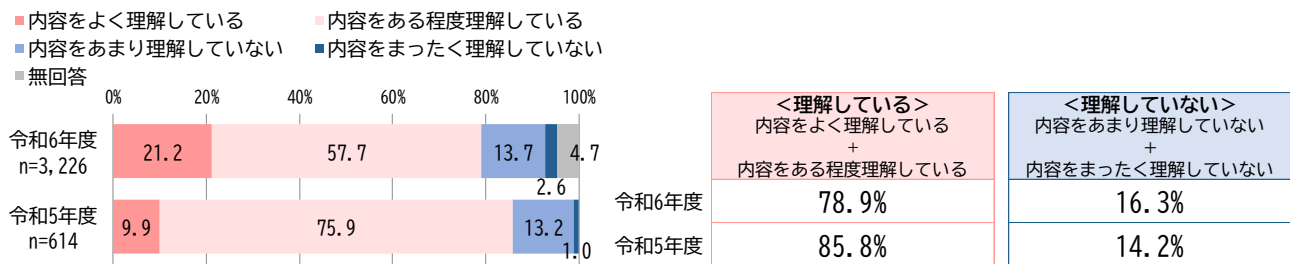
学部学生

内容を理解している「学部学生」（内容をよく理解している（21.2%）＋内容をある程度理解している（57.7%））は 78.9%と高い割合になっています。

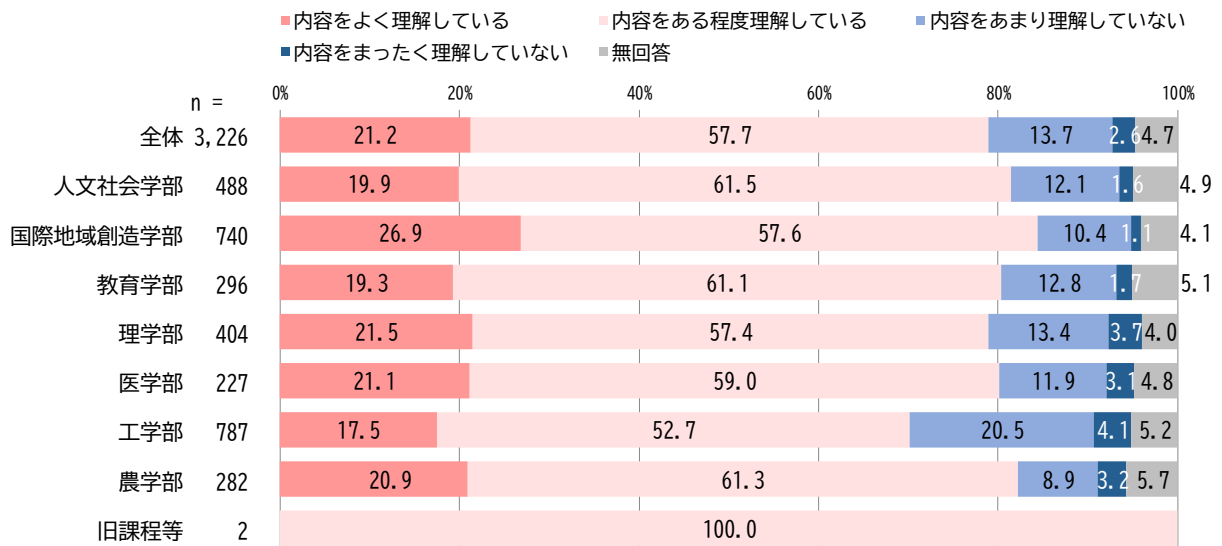
学部別では、国際地域創造学部の「内容をよく理解している」（26.9%）、次いで理学部（21.5%）となります。

令和 5 年度と比較すると、「内容をよく理解している」の割合が 11.3 ポイント増加しています。

図表 51 経年比較 SDGs の理解度



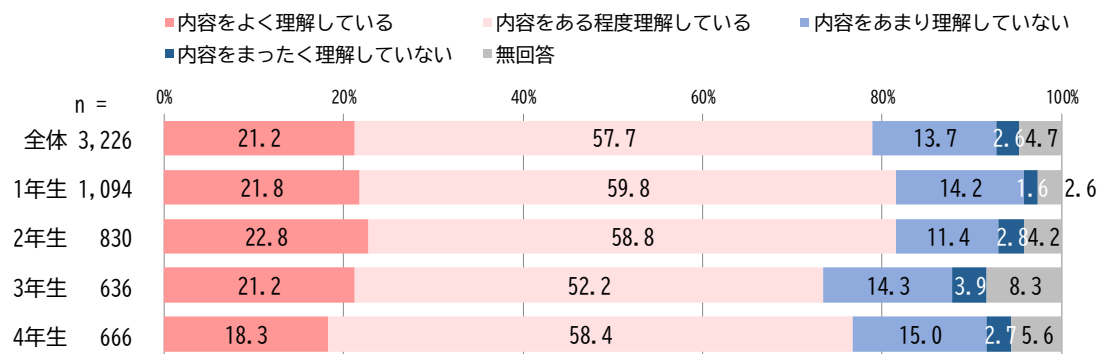
図表 52 学部別 SDGs の理解度



学部学生

学年別では、SDGs の理解度は、1 年生から 4 年生での「内容をよく理解している」割合は 2 割前後となります。中でも 4 年生の理解度の割合が最も低く、2 年生が最も高くなっています。

図表 53 学年別 SDGs の理解度

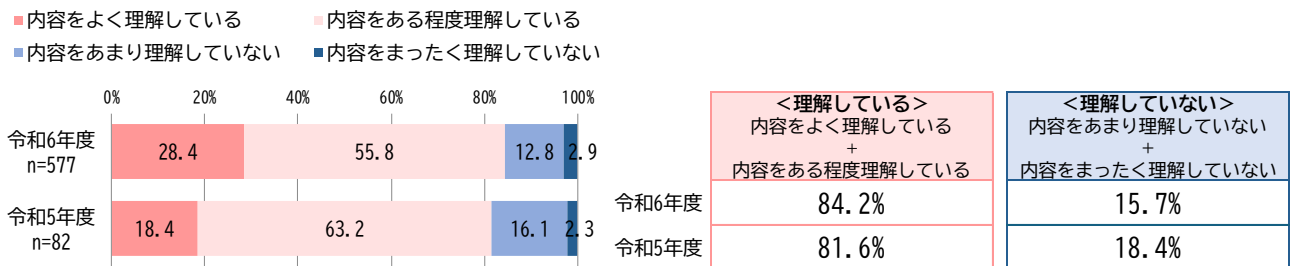


大学院学生

内容を理解している「大学院学生」（内容をよく理解している（28.4%）＋内容をある程度理解している（55.8%））は84.2%と高い割合になっています。

令和5年度と比較すると、「理解している」の割合は2.6ポイント増加し、理解度が向上しています。

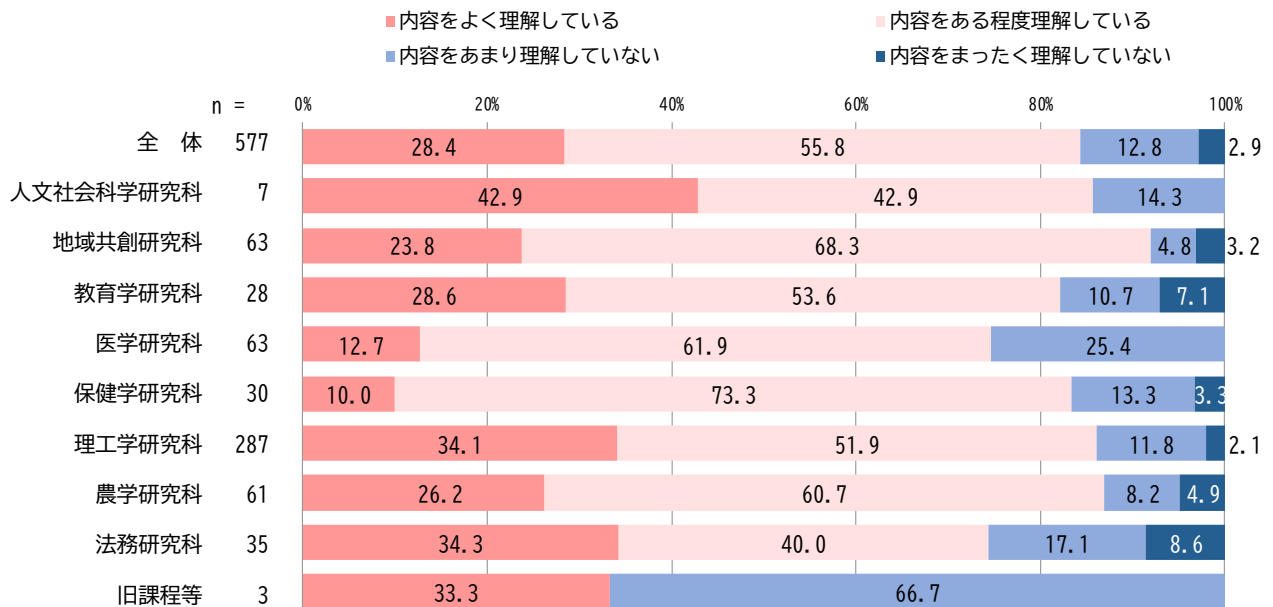
図表 54 経年比較 SDGs の理解度



研究科別の内容を理解している割合について、「地域共創研究科」では92.1%（「内容をよく理解している」（23.8%）＋「内容をある程度理解している」（68.3%））と最も高くなっていますが、研究科ごとの理解度に差がみられます。

大学院学生では、専門分野に特化する傾向がありますが、全体的な視点でみると、大半はSDGsの17の目標と関連性が強い内容を取り入れている教育環境の面で優位性をもっていることが理解度の高さとして考えられます。

図表 55 研究科別 SDGs の理解度

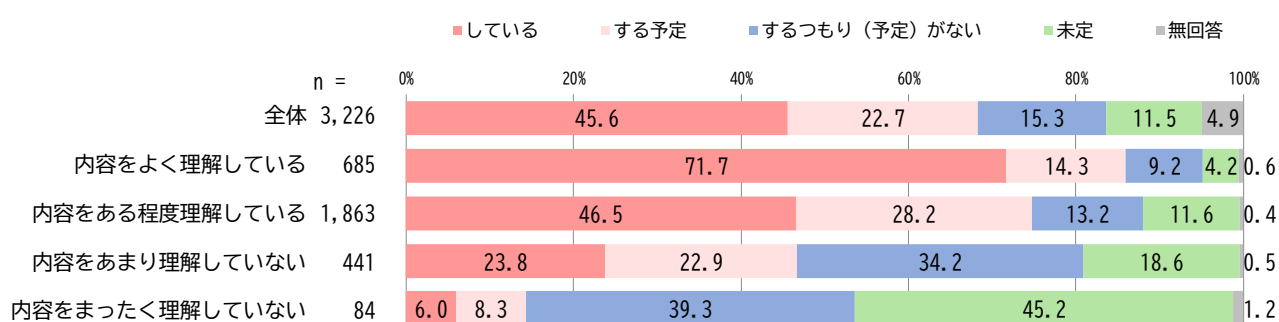


② SDGs の理解度×課題解決の取組

学部学生

「内容をよく理解している」の 71.7%が課題解決の取組を実践しているが、「内容をまったく理解していない」、の 92.8%は取組を実践しておらず、理解度と実践度が相関的であることがうかがえます。内容を理解していない学部学生に対して、引き続き講義や演習等で SDGs の知識の学習も必要です。

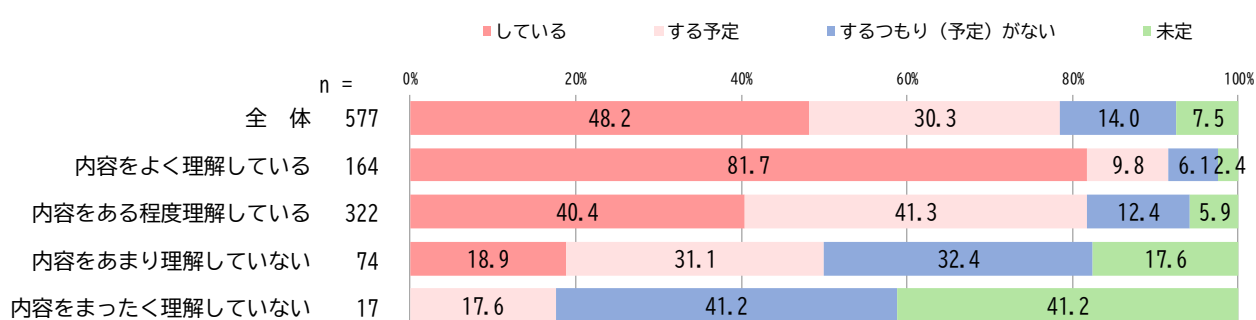
図表 56 SDGs の理解度×SDGs の課題解決のための取組



大学院学生

学部学生とほぼ近似した結果ですが、大学院学生でも、内容の理解度と取組の度合いは相関した結果となります。「内容をよく理解している」の 81.7%が取組を実践していることに対し、「内容をある程度理解している」学生の内、取組を実践している割合が 40.4%と 41.3 ポイントの開きがあるため、SDGs のさらなる学習の機会を提供することで、SDGs についての理解がより浸透し、「取組」の程度に変化が出ることが想定されます。

図表 57 SDGs の理解度×SDGs の課題解決のための取組

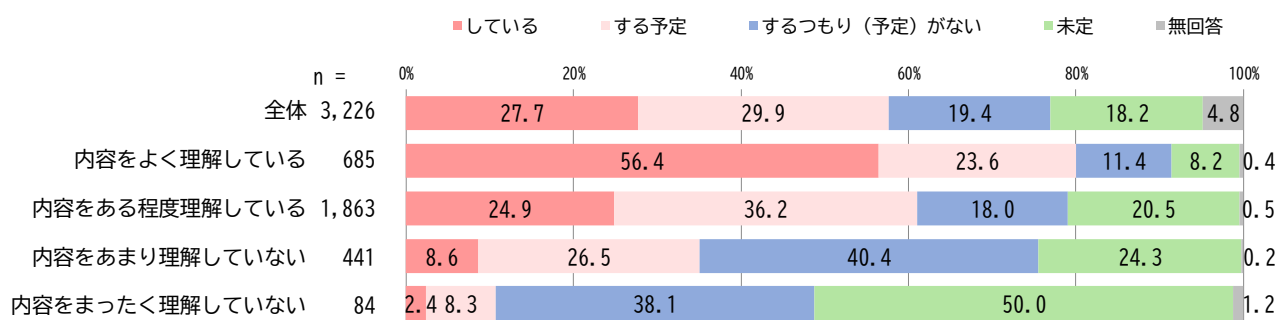


③ SDGs の理解度×SDGs に合わせた自身の取組との関連付け

学部学生

学内や日常生活において、SDGs の掲げているゴールとターゲットの多くに関わりがあります。日常生活と SDGs の目標は重なることが多いため、今一度 SDGs の講義などの機会を設け生活と関連付いているという発見を促すことが大切です。

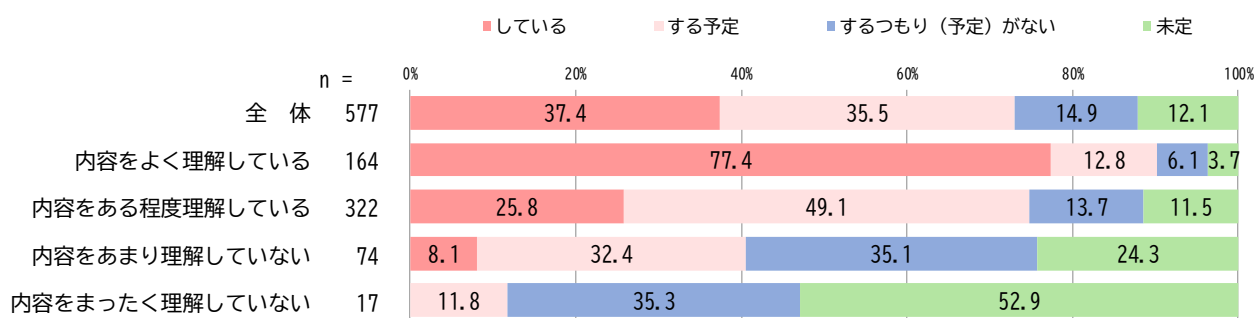
図表 58 SDGs に合わせた自身の取組×SDGs の理解度



大学院学生

学部学生と同様に、日常生活において SDGs の掲げている目標とターゲットの多くに関わりがあります。SDGs に係るセミナーや取組事例の周知を図り、SDGs への理解の深度を深めることで、SDGs と自身の生活が紐づいているという発見を得ることができると考えます。

図表 59 SDGs に合わせた自身の取組×SDGs の理解度



(3) 課題解決の取組

① SDGs の理解のための情報収集・学習の取組

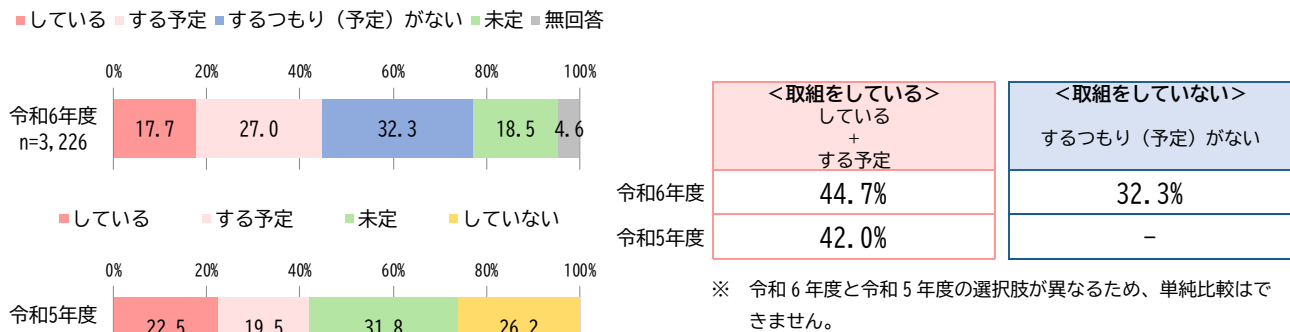
学部学生

学部学生では「している」の割合は 17.7%、「する予定」は 27.0%と取組に意欲がある学部学生は半数以下となっています。令和 5 年度と比較をすると「している」の割合は 4.8 ポイント減少します。

学部別では「している」割合は、「国際地域創造学部」で 22.7%、次いで「農学部」で 21.3%と続きます。

講義等や学内活動と関連付けられていることで、主体的な学習意欲に繋がることも想定され、大学全体でのカリキュラム構築や意識醸成を図っていくことが重要です。

図表 60 経年比較 SDGs 理解のための情報収集・学習の取組



図表 61 学部/学年別 SDGs 理解のための情報収集・学習の取組

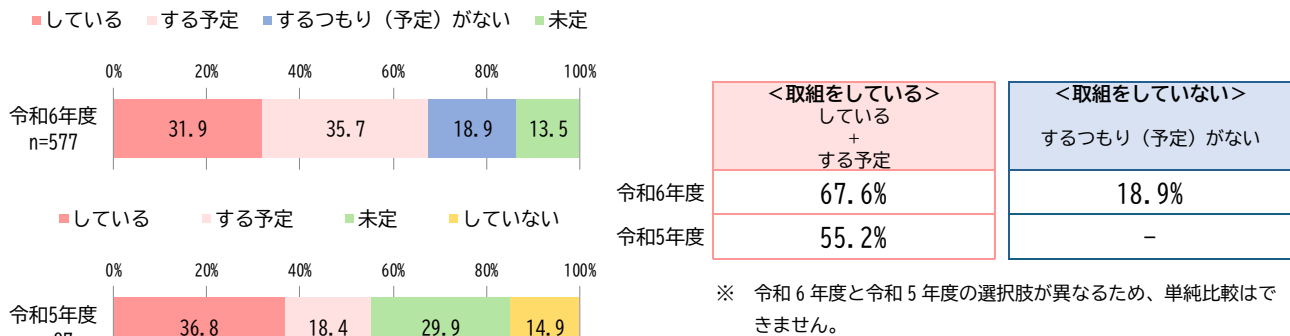
		n	学部/学年別 SDGs理解のための情報収集・学習(%)							
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定	無回答			
	全体	3,226	17.7	27.0	32.3	18.5	4.6			
学部	人文社会学部	488	15.2	25.2	35.7	19.5	4.5			
	国際地域創造学部	740	22.7	28.5	26.8	18.0	4.1			
	教育学部	296	14.5	27.7	30.1	23.0	4.7			
	理学部	404	18.8	25.5	36.9	15.1	3.7			
	医学部	227	17.6	27.3	25.1	25.6	4.4			
	工学部	787	13.9	25.3	38.2	17.3	5.3			
	農学部	282	21.3	31.6	25.9	16.0	5.3			
	旧課程等	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0			
学年	1年生	1,094	16.4	31.8	28.7	20.7	2.4			
	2年生	830	19.9	26.4	30.6	19.2	4.0			
	3年生	636	16.5	25.0	33.8	16.7	8.0			
	4年生	666	18.2	21.6	38.7	15.8	5.7			

大学院学生

大学院学生では、情報収集・学習の取組を「している」割合は、31.9%で、令和5年度と比較すると4.9ポイント減少しています。「する予定」を合わせた割合は12.4ポイント高まっており、情報収集・学習の取組意欲は高まっていることがうかがえます。

研究科別では、「している」は「理工学研究科（博士後期課程）」で59.6%と最も高く、研究科ごとに実践状況の偏りがみられます。

図表 62 経年比較 SDGs 理解のための情報収集・学習の取組



図表 63 研究科別 SDGs 理解のための情報収集・学習の取組

		n	SDGs理解のための情報収集・学習(%)							
			している		する予定		するつもり (予定) がない		未定	
	全体	577		31.9		35.7		18.9		13.5
研究科	人文社会科学研究科（博士後期課程）	7		28.6		14.3		42.9		14.3
	地域共創研究科（修士課程）	63		39.7		30.2		17.5		12.7
	教育学研究科（専門職学位課程）	28		21.4		32.1		35.7		10.7
	医学研究科（博士課程）	55		18.2		47.3		29.1		5.5
	医学研究科（修士課程）	8		0.0		62.5		0.0		37.5
	保健学研究科（博士前期課程）	20		40.0		25.0		15.0		20.0
	保健学研究科（博士後期課程）	10		20.0		60.0		10.0		10.0
	理工学研究科（博士前期課程）	240		32.1		35.4		18.3		14.2
	理工学研究科（博士後期課程）	47		59.6		25.5		6.4		8.5
	農学研究科（修士課程）	61		19.7		39.3		26.2		14.8
	法務研究科（専門職学位課程）	35		37.1		37.1		5.7		20.0
	旧課程等	3		33.3		33.3		0.0		33.3

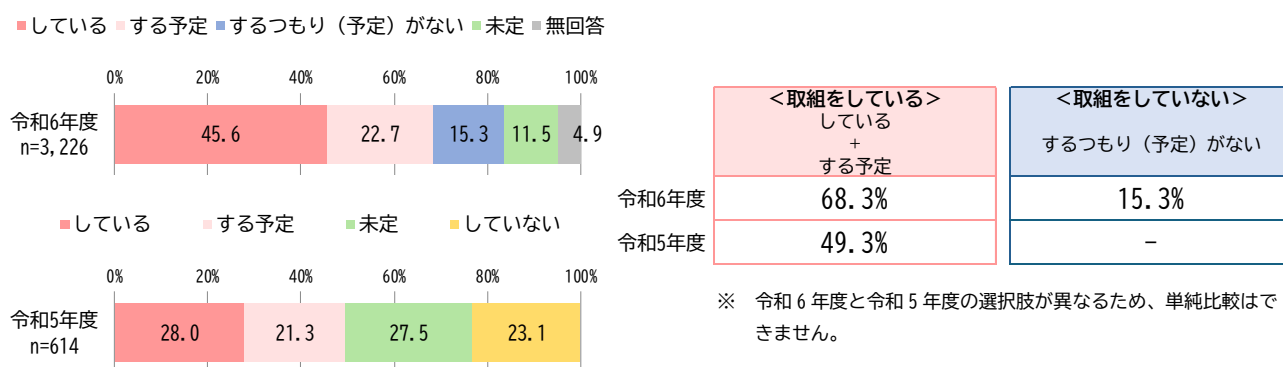
② SDGs の課題解決のための取組

学部学生

学部学生では「している」の割合は 45.6%、「する予定」の 22.7%と合わせると 68.3%と、令和 5 年度と比較すると 19.0 ポイント高まっており、取組に意欲がある学部学生は増加しています。

学部別では「している」の割合は、「旧課程等」を除くと「国際地域創造学部」で 53.4%、「人文社会学部」で 51.4%と続きます。学年別では、「1 年生」で 48.3%と高学年よりも高くなっており、教養科目の講義や学内活動との関連づけで、学習意欲につながっていることが想定され、学年が上がってからも、大学全体で SDGs の実践活動や意識醸成を図っていくことが重要です。

図表 64 経年比較 SDGs の課題解決のための取組



図表 65 学部/学年別 SDGs の課題解決のための取組

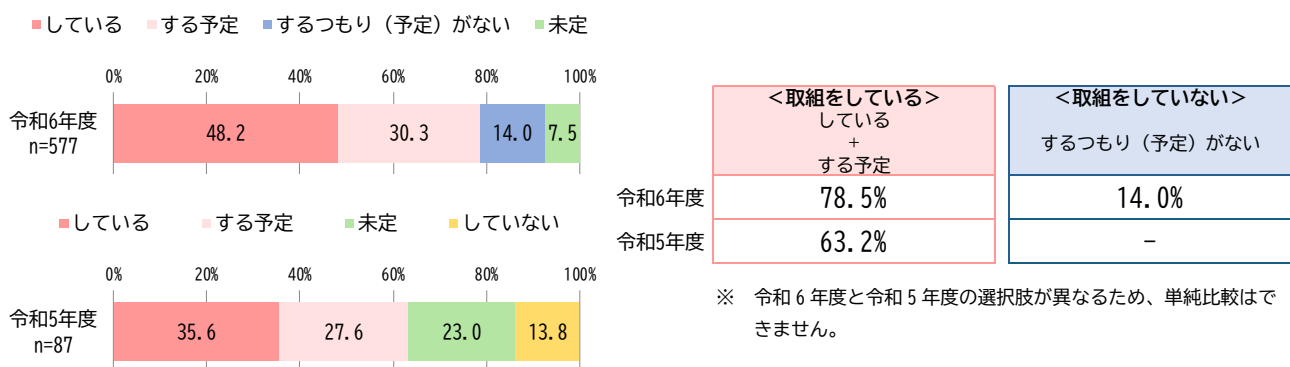
		n	学部/学年別 SDGs課題解決のための取組(%)					
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定	無回答	
	全体	3,226	45.6	22.7	15.3	11.5	4.9	
学部	人文社会学部	488	51.4	19.5	14.8	9.0	5.3	
	国際地域創造学部	740	53.4	21.4	11.6	9.3	4.3	
	教育学部	296	46.3	24.7	10.5	13.5	5.1	
	理学部	404	42.1	22.8	20.5	10.9	3.7	
	医学部	227	46.7	22.0	13.2	13.2	4.8	
	工学部	787	34.4	24.9	19.9	15.4	5.3	
	農学部	282	49.6	24.5	12.4	7.8	5.7	
	旧課程等	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
学年	1年生	1,094	48.3	24.7	12.4	11.9	2.7	
	2年生	830	46.4	24.7	13.9	10.5	4.6	
	3年生	636	41.4	20.8	19.2	10.5	8.2	
	4年生	666	44.4	18.9	18.2	12.9	5.6	

大学院学生

大学院学生では、SDGs の課題解決のための取組を「している」は 48.2%と令和 5 年度よりも 12.6 ポイント高まっています。

研究科別では、「している」の割合は「人文社会科学研究科（博士後期課程）」「地域共創研究科（修士課程）」「保健学研究科（博士前期課程）」「理工学研究科（博士後期課程）」「法務研究科（専門職学位課程）」で 5 割以上となっています。理工学研究科には、他の研究科よりも沢山留学生在籍しているため、研究領域がよりグローバルな分野にまたがり、実践に馴染みやすいことが考えられます。

図表 66 経年比較 SDGs の課題解決のための取組



図表 67 研究科別 SDGs の課題解決のための取組

		n	SDGsの課題解決のための取組(%)			
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定
	全体	577	48.2	30.3	14.0	7.5
研究科	人文社会科学研究科（博士後期課程）	7	71.4	14.3	14.3	0.0
	地域共創研究科（修士課程）	63	52.4	28.6	15.9	3.2
	教育学研究科（専門職学位課程）	28	46.4	25.0	21.4	7.1
	医学研究科（博士課程）	55	45.5	36.4	16.4	1.8
	医学研究科（修士課程）	8	37.5	37.5	0.0	25.0
	保健学研究科（博士前期課程）	20	50.0	25.0	5.0	20.0
	保健学研究科（博士後期課程）	10	40.0	40.0	0.0	20.0
	理工学研究科（博士前期課程）	240	45.0	31.3	15.8	7.9
	理工学研究科（博士後期課程）	47	70.2	25.5	4.3	0.0
	農学研究科（修士課程）	61	41.0	32.8	18.0	8.2
	法務研究科（専門職学位課程）	35	51.4	25.7	8.6	14.3
	旧課程等	3	33.3	33.3	0.0	33.3

③ 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換

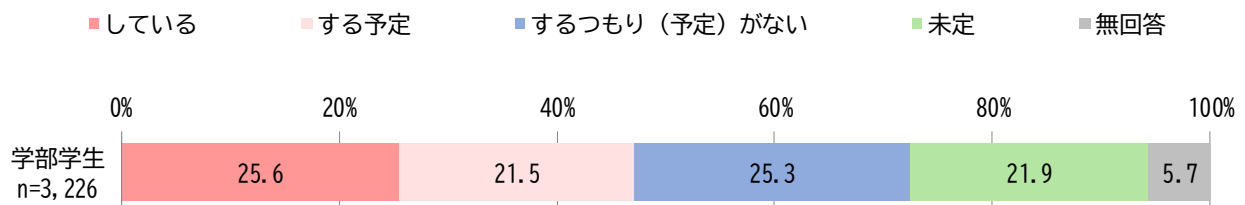
学部学生

同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わすことについて、学部学生では「している」が 25.6%、「するつもり（予定）がない」が 25.3%となっています。

学部別では「している」は「旧課程等」を除くと、「国際地域創造学部」で 32.3%、「人文社会学部」で 30.5%と高くなっています。学年別では「1 年生」が他の学年よりも高くなっています。

学部学生は、学内だけの課題に留まらず、日常生活でも小さなことから実施できることを、講義や課外活動等の機会を通じて身近に感じることが重要です。

図表 68 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換



図表 69 学部/学年別 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換

		n	学部/学年別 同僚、家族や友人などとのSDGsについての意見交換(%)							
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定	無回答			
	全体	3,226	25.6	21.5	25.3	21.9	5.7			
学部	人文社会学部	488	30.5	17.2	26.8	19.3	6.1			
	国際地域創造学部	740	32.3	21.2	21.9	20.1	4.5			
	教育学部	296	26.0	21.3	18.2	28.0	6.4			
	理学部	404	24.3	18.8	31.9	19.8	5.2			
	医学部	227	23.8	22.9	21.1	26.4	5.7			
	工学部	787	17.2	23.6	30.6	22.9	5.7			
	農学部	282	25.5	26.2	18.1	21.6	8.5			
	旧課程等	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0			
学年	1年生	1,094	28.1	23.1	21.9	23.2	3.7			
	2年生	830	26.7	21.1	26.0	21.0	5.2			
	3年生	636	20.9	22.0	27.0	20.4	9.6			
	4年生	666	24.5	18.6	28.4	22.4	6.2			

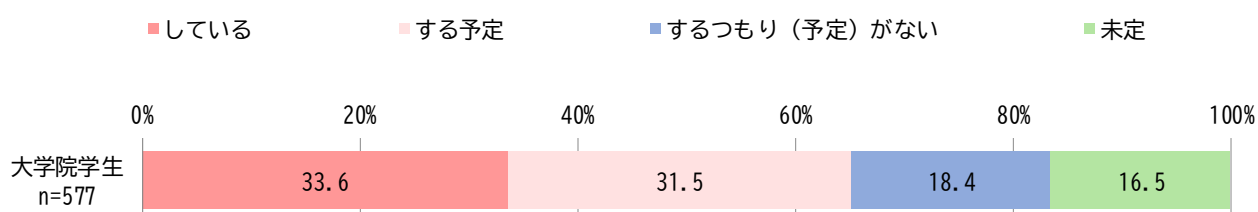
大学院学生

大学院学生では、SDGs についての意見交換を「している」は 33.6%となっています。

研究科別では「している」の割合は「理工学研究科（博士後期課程）」で 57.4%、次いで「法務研究科（専門職学位課程）」が 42.9%と高くなっています。

日常生活でも気軽に SDGs に関する話題について話しやすい雰囲気やその意義を知ることが重要であると考えます。

図表 70 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換



図表 71 研究科別 同僚、家族や友人などとの SDGs についての意見交換

		n	同僚、家族や友人などとのSDGsについての意見交換(%)			
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定
	全体	577	33.6	31.5	18.4	16.5
研究科	人文社会科学研究科（博士後期課程）	7	28.6	0.0	42.9	28.6
	地域共創研究科（修士課程）	63	36.5	31.7	15.9	15.9
	教育学研究科（専門職学位課程）	28	32.1	32.1	25.0	10.7
	医学研究科（博士課程）	55	29.1	45.5	21.8	3.6
	医学研究科（修士課程）	8	12.5	25.0	0.0	62.5
	保健学研究科（博士前期課程）	20	35.0	25.0	20.0	20.0
	保健学研究科（博士後期課程）	10	30.0	30.0	20.0	20.0
	理工学研究科（博士前期課程）	240	32.9	31.3	19.2	16.7
	理工学研究科（博士後期課程）	47	57.4	23.4	6.4	12.8
	農学研究科（修士課程）	61	19.7	36.1	23.0	21.3
	法務研究科（専門職学位課程）	35	42.9	25.7	11.4	20.0
	旧課程等	3	0.0	33.3	33.3	33.3

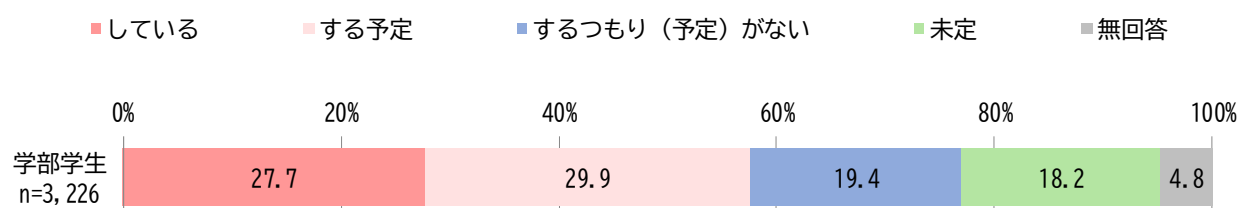
④ SDGs に合わせた自身の取組との関連付け

学部学生

自身の取組との関連付けについては、学部学生で「している」が 27.7%です。

学部別では、「している」は「旧課程等」を除くと、「国際地域創造学部」で 36.8%、次いで「人文社会学部」「農学部」で 31.6%と続きます。

図表 72 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け



図表 73 学部/学年別 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け

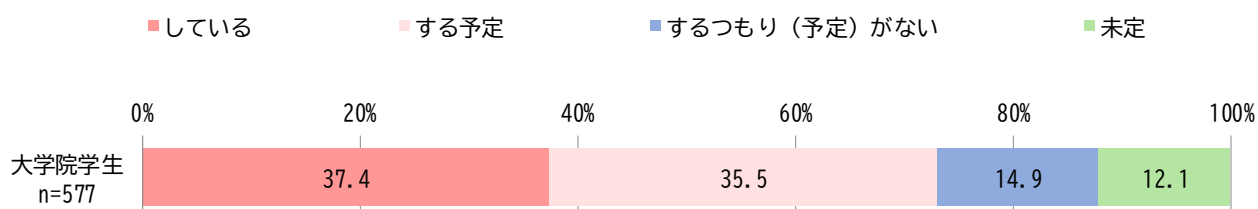
		n	学部/学年別 SDGsに合わせた自身の取組との関連付けについて(%)				
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定	無回答
学部	全体	3,226	27.7	29.9	19.4	18.2	4.8
	人文社会学部	488	31.6	28.3	17.8	17.6	4.7
	国際地域創造学部	740	36.8	28.1	15.4	15.3	4.5
	教育学部	296	27.0	34.1	15.5	18.9	4.4
	理学部	404	24.8	25.7	27.0	18.8	3.7
	医学部	227	27.3	35.7	14.5	18.1	4.4
	工学部	787	17.3	30.7	24.8	21.6	5.6
	農学部	282	31.6	31.9	14.9	16.0	5.7
	旧課程等	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
学年	1年生	1,094	28.3	32.6	15.8	20.7	2.5
	2年生	830	30.1	29.0	19.4	17.2	4.2
	3年生	636	24.8	29.2	20.6	16.8	8.5
	4年生	666	26.4	27.0	24.2	16.7	5.7

大学院学生

大学院学生では、自身の取組の関連付けを「している」は37.4%となっています。

回答が少ない研究科もあり参考値となりますが、「人文社会科学研究科(博士後期課程)」「理工学研究科(博士後期課程)」「地域共創研究科(修士課程)」の割合が高くなっています。

図表 74 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け



図表 75 研究科別 SDGs に合わせた自身の取組との関連付け

		n	SDGsに合わせた自身の取組との関連付け(%)			
			している	する予定	するつもり (予定) がない	未定
	全体	577	37.4	35.5	14.9	12.1
研究科	人文社会科学研究科（博士後期課程）	7	71.4	14.3	14.3	0.0
	地域共創研究科（修士課程）	63	44.4	34.9	14.3	6.3
	教育学研究科（専門職学位課程）	28	35.7	35.7	17.9	10.7
	医学研究科（博士課程）	55	30.9	40.0	23.6	5.5
	医学研究科（修士課程）	8	25.0	50.0	0.0	25.0
	保健学研究科（博士前期課程）	20	40.0	30.0	5.0	25.0
	保健学研究科（博士後期課程）	10	40.0	40.0	0.0	20.0
	理工学研究科（博士前期課程）	240	33.8	36.7	17.1	12.5
	理工学研究科（博士後期課程）	47	59.6	27.7	4.3	8.5
	農学研究科（修士課程）	61	31.1	37.7	18.0	13.1
	法務研究科（専門職学位課程）	35	37.1	28.6	8.6	25.7
	旧課程等	3	33.3	66.7	0.0	0.0

5. 取組事例

(1) 教育部門の取組

広く、深く SDGs について学ぼう –SDGs 関連科目–

琉球大学は、3つの基本理念である、「真理の探究」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追究」のもと、「地域と共に豊かな未来社会をデザインする大学」を目指しています。

各学部・大学院の授業は、学士教育プログラムおよび大学院教育プログラムのディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づき提供され、広く深く SDGs について学ぶことができます。

そこで、授業で取り扱う内容に、17の持続可能な開発目標について、

- ① 持続可能な開発目標について学ぶ内容
- ② 持続可能な開発目標を達成するために必要な知識やスキルについて学ぶ内容
- ③ 持続可能な開発目標を達成するために取り組む動機付けとなる内容

SDGs
関連科目



のいずれかを含む場合、関連する 17 の持続可能な開発目標を示して「SDGs 関連科目」として取り扱うこととしています。琉球大学で SDGs について学びたい人は、「SDGs 関連科目」を参考に各教育プログラムの枠を超えて SDGs について幅広く学ぶことができます。

SDGs を学際的・体系的に学ぼう –副専攻等の開設–

琉球大学は、学部及び学科等で編成する教育課程以外に、学生の「複眼的な思考力」「総合的な理解力」を育成するための教育課程として副専攻やデジタルバッジを取得できるプログラムを開設しています。そのうち、特に SDGs に関する学びを深めることが出来る「総合環境学副専攻」及び「インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム」を紹介します。

総合環境学副専攻

- ① 環境についての知（環境リテラシー）を修得します。
- ② 「環境」をテーマにした科目を学際的科目群として、学部横断的学びを基礎とし、「総合環境学」として理論と実践を多面的に学びます。
- ③ 文系・理系を問わず、本学の多くの分野の教員から人間環境、自然環境、社会環境、地球環境をめぐる諸問題について学びます。

世界展開力強化事業「インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム」

- ① 「太平洋島嶼地域課題解決型コース科目」は、「再生可能エネルギー」「環境」「ウェルビーイング」及び「共生」の4コースから構成され、文理の領域を超えた横断的な複合分野の学際的なコースを提供しており、本コース科目と交流プログラムを合わせて8単位以上、取得した学生にはデジタルバッジを発行します。
- ② COIL 型教育や JV-Campus を活用した国際共修の実践を通して学生の国際的通用性を高める教育を行います。
- ③ 交流プログラム（実渡航留学・研修、オンライン留学・研修、インターンシップ）とも連動します。

(2) 研究部門の取組

SDGs 達成を目指す研究活動の支援

SDGs の達成には大学の広範な貢献が必要とされていますが、中でも SDGs に関する研究は、大学が担う SDGs への貢献の大きな一つの柱とされています。研究部門では、令和 2 年度より SDGs の課題解決を目指す研究を支援するため、戦略的研究推進経費事業「琉球大学 SDGs 社会課題解決研究プロジェクト」を学内公募しています。令和 6 年度は、応募件数 31 件の中から、表 1 に挙げる 8 件の課題を採択・支援しました。応募数は年々増加しており、SDGs 達成を目指す活動の増加を示しています。

図表 76 令和 6 年度 SDGs 社会課題解決研究プロジェクト 採択一覧

部局	プロジェクト名	関連するSDGs
医学部	沖縄県の医療的ケア児が地域の学校で共に学ぶことを支える看護職育成を目指して	4・10・11
医学研究科	医工連携による骨盤底筋収縮を促す言葉のデザイン開発～より効果的な骨盤底筋トレーニングの普及を目指して～	3
教育学研究科	「共生社会の実現」に向けた「貧困や障害等の影響を受ける多様な子ども」への支援体制の構築と地域社会との連携・協働による教育・支援アプローチ	4・1・10
教育学研究科	視覚障害を持つ児童生徒を対象にした生成系AIを活用した情報活用能力の育成と学習支援AIエージェントの開発	4・10
工学部	シロアリの消化システムを利用した未利用植物資源の高循環と新素材開発	9・12・13
熱帯生物圏 研究センター	天然由来の免疫賦活剤を活用した新たな魚病対策技術の開発	2・14・9
農学部	ZEAL(Zero Emission Agriculture and livestock)II:大学農場のゼロミッションに向けた再エネ利用とスマート農業技術の開発	7・9・4
理学部	「大気海洋科学」×「農業経営」で窒素肥料量を最適化するスマートアグリ開発	2・12・14

SDGs 達成を目指す活動の発信と共有

研究部門では、毎年「琉大 SDGs 研究シンポジウム」を開催し、SDGs のゴール達成を目指す研究や取組を学内外へ広く発信しています。さらに、学内の SDGs 研究の推進とシーズの発掘、そして学内ネットワークの構築を目的に、SDGs ランチャタイムセミナーをオンラインで開催しています。

ランチャタイムセミナーでは、SDGs の課題解決に向けた取組を行っている方に話題提供頂き、部局や職種を超えて、発表者と参加者でざっくばらんに質問や意見交換が行われています。研究部門では、これらの活動を通して、既存の活動の発展と新たに取り組む構成員の増加を目指しています。

SDGs研究部門
ランチャタイムセミナー

教職員・学生
どなたでも

2024年の第1、2回のSDGs研究部門ランチャタイムセミナーでは、琉球大学のSDGs達成に向けた研究の中から、教育学・社会科学分野の関心領域で発表された研究をご紹介します。

第1回 2024年7月23日(火) 12:10～12:40
ゲスト 岡花新一郎(教育学部 准教授)
テーマ Multidimensional Psychometrics of Teacher Educators' Professional Identity: An Initial Validation with Teacher Educators in Southeast Asia
教師教育者のアイデンティティ・ファンクショナリティ&トランスミッターの関与と新しいアイデンティティの構築

第2回 2024年8月6日(火) 12:10～12:40
ゲスト 藤田陽子(島嶼地域科学研究所 教授)
テーマ Economic Value of Coral Reefs in Palau
パルオにおける珊瑚礁の経済価値
Regional Science for Small Islands:
Construction of a New Approach to Island Studies
島嶼地域科学：島嶼研究への新たなアプローチの構築

参加申込み(無料)
<https://forms.office.com/r/u66nXcXPLN>
主催：SDGs推進本部 研究部門
問合せ：研究企画室(内線 千原 9087)

ランチャタイムセミナー チラシ

(3) 社会貢献部門の取組

子どもの貧困問題への対応

AI・データサイエンスを活用した子どもの居場所の運営支援

沖縄県は全国と比較して「子どもの貧困」に関連する課題が多く、その解決に向けて、本学に所属する教職員や学生がチームとなり取り組んでいます。そのなかで、子どもの貧困解決プロジェクトの一つとして、「AI・データサイエンスを活用した子どもの居場所の運営支援」を目的とした寄付を適正配分する AI アプリ「うむゆい」の拡張開発および実証実験を行っています。



寄付を適正配分する AI アプリ「うむゆい」の仕組み

SDGs の概念を取り入れたキャンパスツーリズムの展開

修学旅行などでの体験学習を通して SDGs と向き合う

県外から訪れる多くの修学旅行生・研修旅行生に沖縄の文化、歴史、自然の魅力や本学での研究成果を、SDGs の概念を取り入れつつ体系化したプログラム（デザインワークショップや陸上養殖の実証試験場見学を含む）により発信しています。また、本学のコンテンツを利用した学びと長期滞在・観光を両立させるスタディケーションを実施しています。



キャンパスツーリズムの様子
(陸上養殖の実証試験場見学)

(4) 業務・ガバナンス部門の取組

THE インパクトランキング 2024 へのエントリー

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が実施し、SDGs の枠組みを使って大学の社会貢献度を測る「THE インパクトランキング 2024」に琉球大学にとって強みとなる（したい）11 項目にエントリーしました。エントリーの結果、総合ランキングの対象となった世界 1,963 大学中で 401-600 位、国内 18 位タイにランクインしました。SDGs 目標別ランキングにおいては以下のとおりランクインし、高い評価を得ました。

琉球大学は、これからも SDGs の達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。

図表 77 THE インパクトランキング 2024 における本学の主要スコア

SDGs カテゴリ	 SDG14 海の豊かさを守ろう	 SDG15 陸の豊かさを守ろう	 SDG12 つくる責任 つかう責任	 総合
	世界ランク 101-200 位 /628 校	世界ランク 201-300 位 /741 校	世界ランク 301-400 位 /825 校	世界ランク 401-600 位 /1,963 校
	国内ランク 8 位タイ /41 校	国内ランク 14 位タイ /42 校	国内ランク 17 位タイ /47 校	国内ランク 18 位タイ /74 校

琉大教職員のための SDGs ワークショップを開催

SDGs 推進本部業務・ガバナンス部門主催、琉球大学ジェンダー協働推進室及び琉球大学ヒューマンライツセンターの共催により、「琉大教職員のための SDGs ワークショップ ～人権とジェンダー平等 働きがいのある職場づくり～」を開催しました。

総勢 55 名の教職員が参加し、実施後アンケートでは、「男女の教員を取り巻く育休・介護休暇等の働き方の問題を統計データと現場のリアルタイムの声の両方から理解できた」などの声が寄せられました。



第 3 部特別対談の様子

イベントの開催報告に関する WEB ページ：
<https://x.gd/c8Xe0>

(5) カーボンニュートラル推進部門の取組

カーボンニュートラル推進に向けたロードマップ策定におけるワークショップ開催

カーボンニュートラル推進部門では、本学全体のカーボンニュートラルに係る取組を推進するため、今年度、ロードマップの策定に取り組んでいます。策定にあたり、社会が変化する要因・兆しを広く捉えながら、具体的なアクション・施策を発想する場を設け、民間企業所属のファシリテーター進行のもと、本学のカーボンニュートラルに関心のある学生・教職員及びカーボンニュートラル推進部門メンバーを交えたワークショップ（第1回（8/27～28）、第2回（10/21～22））を開催しました。（延べ約40名参加）

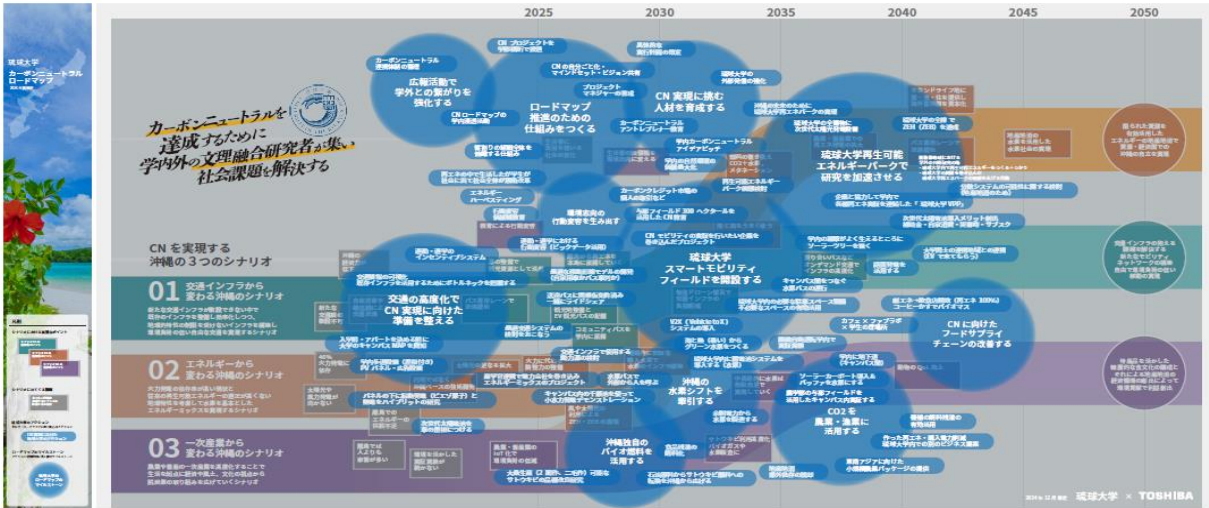
また、策定したロードマップについて、学内の学生・教職員に関心を持ってもらうため千原キャンパス内に掲示しました。

チームA		チームB	
あまのり たかひろ 眞榮平 孝裕	理学部 物質地球科学科物理系 教授	おのの 真衣子 岡本 牧子	教育学部 技術教育 教授
せせは いずる 瀬名 茂 出	工学部 エネルギー環境工学コース 熱流体工学 教授	おおしま しほに 大島 順子	国際地域創造学部 国際地域創造学科 准教授
たけら としき 平良 東紀	農学部 畜産衛生学資源科学科 教授	たましゅう ゆいし 玉城 佑一	施設企画課 環境・施設マネジメント室 活用推進係 主任
よな あつし 與那 篤史	工学部 工学科 准教授	なげな やすし 知花 基史	財務部 財務企画課 課長代理
たまき ひろし 玉城 均	施設企画課 課長代理	ながみね ゆうき 長瀬 祐貴	理学部 3年次（エコキャン委員長）
かわの（はなや） 嘉陽 家康	人文社会学部 3年次（エコキャン学生会員）		
チームC		ファシリテーター	
はつ るみか 羽賀 史浩	大学運営推進組織 研究推進機構 特命教授	さかい ひろみ 界 博文	しげや まさ 渋谷 真人
はだ あいこ 清田 栄作	教育学部 理科教育 教授	おろし かずき 佐藤 一樹	おのの 隆太郎
なかがわ てつせい 中川 鉄水	理学部 海洋自然科学科化学系 准教授	たなか しょうこ 田中 翔子	なかの かずや 中野 孝哉
くさき まゆみ 國場 真由美	上原キャンパス事務局 企画課 経営分析係 係長	あむら かずま 藤原 風丸	おは しのぶ 乙葉 茂
おう いじん 王 怡人	国際地域創造学部 国際地域創造学科 教授		
いほ（きょう） 伊保 京華	教育学部 1年次		
まつもと 松本 望央	教育学部 4年次		



参加者の集合写真

ワークショップ参加メンバー一覧



実際に学内に掲示したロードマップ

6. まとめ

(1) まとめ

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

本学では、2007 年に「琉球大学憲章」を 制定し、その基本理念に基づき、持続可能な地域社会の発展に向けた取組を推進してきました。その後、本学における SDGs の達成に資する様々な活動を強力に推進するため、2020 年 2 月に SDGs 推進室を設置し、この活動をさらに強化するため、2024 年 4 月に SDGs 推進本部に格上げしました。

それに伴い、それまで SDGs 推進室の下に設置していたワーキンググループを部門とし、現在は、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務・ガバナンス」及び「カーボンニュートラル推進」の 5 つの部門を中心に SDGs に関連する取組を推進しています。

本推進本部の取組の一つとして、教職員及び学生の SDGs 意識啓発に向けた課題の把握と今後の SDGs の取組改善に資するため、SDGs に関するアンケートを実施しました。今回で、教職員は 5 回目、学生については 3 回目の実施となります。「SDGs に関する教職員・学生アンケート調査報告書」の発行は今回で 4 回目となりますが、今回の大きな変更点は、主な事項について、経年比較の表を追加した点です。

SDGs の理解度について、前回(令和 5 年度)実施のアンケートと比較し「内容をよく理解している」および「ある程度理解している」と回答した割合は、教員で 93.0%、職員で 77.3%といずれも高い水準を維持しつつ、わずかに上昇しました。

本学における SDGs に関連するさまざまな取組の成果として、教職員全体の理解度は年々着実に高まりつつあります。一方で、職員のうち 2 割は「内容をあまり理解していない」または「まったく理解していない」と回答しており、その中には SDGs に関連づけた自身の業務や取組を意識できていないケースも多くみられました。このような状況を踏まえ、今後もシンポジウムやワークショップ等を通じて、「どのような活動が SDGs に貢献しているのか」を具体的に紹介・共有する場を設け、理解促進と実践の後押しを図ることが重要です。

また、学部学生及び大学院学生については、「内容をよく理解している」と回答した割合が、昨年度と比較しそれぞれ 11.3%、10.0%上昇しています。また、「内容をよく理解している」+「内容をある程度理解している」の割合は学部学生、大学院学生のどちらも約 8 割を占めていることから、SDGs 関連科目の提供等の取組が学生の高い理解度に繋がっていると思われます。一方で、課題解決の取組について「している」と回答した割合は、学部学生も大学院生もともに前年度より下がってしまっているため、SDGs の意識醸成や実践活動を促す工夫が求められます。

6. まとめ

今回のアンケート調査結果を踏まえ、引き続き、本学構成員の SDGs に対する理解度の向上や課題解決に向けた取組の実践を促すための取組を実施し、改善を目指すと共に、学内外のステークホルダーとの連携・協働による様々な取組をさらに推進していきます。

7. 調査票

(1) 教員向け

NO.	設問	タイプ	選択肢
1	あなたの年代をお選びください。	単数回答	1. 20 代 2. 30 代 3. 40 代 4. 50 代 5. 60 代
2	あなたの職名をお選びください。	単数回答	1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 その他
3	あなたの所属部局について 1 つお選びください。	単数回答	1～19 項目
4	あなたが所属している学科・課程等名をお選びください。	単数回答	1～25 項目
5	あなたは、SDGs に関連する科目の提供に関心がありますか。	単数回答	1. 大変関心がある 2. まあまあ関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない
6	SDGs についてお聞きます。あてはまるものを 1 つお選びください。 ※この設問では、SDGs に関する以下の説明文を参考にあなたの理解度を選択してください。 (例) ・ SDGs とは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) のことである。 ・ SDGs は、17 のゴールがある。 (参考)SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは ? (国際連合広報センター ウェブサイトより) https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounder/s/31737/	単数回答	1. 内容をよく理解している 2. 内容をある程度理解している 3. 内容をあまり理解していない 4. 内容をまったく理解していない
7	SDGs を知った経緯について、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. テレビ、インターネット、新聞、ラジオ、雑誌などのメディア 2. 友人や家族からの情報提供 その他
8	SDGs をよりよく理解するための情報収集・学習について、あてはまるものを 1 つお選びください。 ※この設問では、SDGs をよりよく理解するためのあなたの状況について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・ SDGs に関する書籍等の読書。 ・ SDGs に関する番組等の視聴。 ・ SDGs に関する授業・セミナー・講演会等の受講。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり (予定) がない 4. 未定
9	SDGs の課題解決の取組について、あてはまるものを 1 つお選びください。 ※この設問では、SDGs の課題解決のためにあなたがやっている取組 (日常的な実践) について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・ SDGs を意識した行動をしている。 ・ 無駄なエネルギーを消費しない。(節電、節水を心がけている。) ・ エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩いている。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり (予定) がない 4. 未定

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
10	SDGs に合わせた自身の取組との関連付けについて、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs のゴールに合わせた自身の取組との関連付けについて、以下を参考に選択してください。 ・以下の SDGs の 17 のゴールと上記「9」で回答されたような自身の取組との関連付けを意識している。 ・ SDG1：貧困をなくそう ・ SDG2：飢餓をゼロに ・ SDG3：すべての人に健康と福祉を ・ SDG4：質の高い教育をみんなに ・ SDG5：ジェンダー平等を実現しよう ・ SDG6：安全な水とトイレを世界中に ・ SDG7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに ・ SDG8：働きがいも経済成長も ・ SDG9：産業と技術革新の基盤をつくろう ・ SDG10：人や国の不平等をなくそう ・ SDG11：住み続けられるまちづくりを ・ SDG12：つくる責任 つかう責任 ・ SDG13：気候変動に具体的な対策を ・ SDG14：海の豊かさを守ろう ・ SDG15：陸の豊かさを守ろう ・ SDG16：平和と公正をすべての人に ・ SDG17：パートナーシップで目標を達成しよう	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定
11	同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わしたりするなど、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わしたりするなどの経験について、以下の例を参考に選択してください。 （例） ・自身や他者の SDGs の課題解決に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・SDGs の制度や運用等の改善に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・節電、節水を心がけることについて、同僚、家族や友人などと話している。 ・エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩くことについて、同僚、家族や友人などと話している。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定
12	SDGs に関係していると思われるあなたの研究テーマ名をお書きください。	自由回答	

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
13	その研究テーマが関連している SDGs ゴールについて、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
14	あなたは産学官連携で共同・受託研究がありますか。	単数回答	1. はい 2. いいえ
15	産学官連携で行っている共同・受託研究テーマのうち SDGs に関係していると思われるテーマ名をお書きください。	自由回答	
16	その共同・受託研究テーマが関連している SDGs ゴールをお選びください。	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
17	研究者データベースに SDGs アイコン設定が可能になり、パートナーシップを構築しやすくなりましたが、上記でご回答いただいた内容を研究者データベースに反映させてもよいですか。	単数回答	1. 反映させてもよい 2. 既に反映しているのでそのままよい 3. 反映させたくない 4. どちらともいえない
18	SDGs 達成に貢献する研究テーマへの支援制度（学内公募など）を開始しましたが、それを利用したいと思いますか。	単数回答	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. どちらともいえない

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
19	SDGs の 17 の目標のうち、あなたが特に重要であると思う目標を 5 つお選びください。(5 つまで)	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
20	SDGs の 17 の目標のうち、内容について深く調べてみたい目標について、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
21	SDGs の 17 の目標のうち、琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標について、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
22	琉球大学 SDGs 推進本部が設置されて以降、教育、研究、社会貢献、業務・ガバナンス、カーボンニュートラル推進の各部門において様々な活動が推進されています。下記の中で重点的に取り組むべきと思う項目について、あてはまるものをお選びください。 ※複数選択可 ※SDGs 推進本部各部門の取組については、下記の URL からご参照ください。 https://x.gd/7xJ5P	複数回答	1. SDGs の達成に貢献する教育実践に向けたセミナー等の実施 2. 授業科目と SDGs 目標の関係の可視化 3. SDGs 教育カリキュラムの構築 4. 高大連携による SDGs の推進 5. 産学連携協定による SDGs プロジェクトの推進 6. SDGs 達成に貢献する研究プロジェクトの推進 7. ICT を活用した離島教育環境改善事業 8. 子どもの貧困問題への対応 9. SDGs の概念を取り入れたキャンパスツーリズムの展開 10. 国際貢献の見える化と方向性の確認 11. 地域との共同事業による SDGs 目標の対応状況の可視化及び評価への展開 12. SDGs の視点を取り入れたハラスメント関連規則の改正 13. ホームページや SNS などによる SDGs 広報の推進 14. SDGs コミュニケーション活動の推進 15. THE インパクトランキングを活用した SDGs 活動の向上 16. SDGs に関連する目標と評価指標の設定と進捗管理 17. 県内外の SDGs パートナリーシップの推進 18. カーボンニュートラルの推進 その他
23	琉球大学における SDGs に関する今後の取組について、あなたのご意見を下記にお書きください。	自由回答	

(2) 職員向け

NO.	設問	タイプ	選択肢
1	あなたの年代をお選びください。	単数回答	1. 20 代 2. 30 代 3. 40 代 4. 50 代 5. 60 代
2	あなたの職名をお選びください。	単数回答	1. 部長 2. 課長・事務長 3. 課長補佐（課長代理）・事務長補佐・専門員（技術専門員を含む） 4. 専門職員・係長・主任・一般職員（技術系職員を含む） 5. 看護師 6. 看護師以外の医療系職員 その他
3	あなたの労働形態について 1 つだけお選びください。	単数回答	1. 常勤 2. 非常勤
4	あなたの所属している組織について 1 つお選びください。	単数回答	1. 総合企画戦略部 2. 総務部 3. 財務部 4. 学生部 5. 施設運営部 6. 学部事務 7. 病院 8. 図書館 9. 上原キャンパス事務部 その他
5	SDGs についてお聞きします。あてはまるものを 1 つお選びください。 ※この設問では、SDGs に関する以下の説明文を参考にあなたの理解度を選択してください。 (例) ・SDGs とは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことである。 ・SDGs は、17 のゴールがある。 (参考)SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？(国際連合広報センター ウェブサイトより) https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounder/s/31737/	単数回答	1. 内容をよく理解している 2. 内容をある程度理解している 3. 内容をあまり理解していない 4. 内容をまったく理解していない
6	SDGs の印象について、あてはまるものを 1 つお選びください。	単数回答	1. そもそも知らない 2. 自分にはあまり関係がない 3. 取組は重要と考えるが、日々の生活に比べると、優先度は下がる 4. 目新しさはなく、すでに自分で取り組んでいるものである 5. 取り組むことで周りから褒められる等、自らブランディングでのメリットが期待される その他
7	SDGs を知った経緯について、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. テレビ、インターネット、新聞、ラジオ、雑誌などのメディア 2. 友人や家族からの情報提供 その他

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
8	SDGs をよりよく理解するための情報収集・学習について、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs をよりよく理解するためのあなたの状況について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・SDGs に関する書籍等の読書。 ・SDGs に関する番組等の視聴。 ・SDGs に関する授業・セミナー・講演会等の受講。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定
9	SDGs の課題解決の取組について、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs の課題解決のためにあなたが行っている取組（日常的な実践）について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・SDGs を意識した行動をしている。 ・無駄なエネルギーを消費しない。（節電、節水を心がけている。） ・エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩いている。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定
10	SDGs に合わせた自身の取組との関連付けについて、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs のゴールに合わせた自身の取組との関連付けについて、以下を参考に選択してください。 ・以下のSDGsの17のゴールと上記「9」で回答されたような自身の取組との関連付けを意識している。 ・SDG1：貧困をなくそう ・SDG2：飢餓をゼロに ・SDG3：すべての人に健康と福祉を ・SDG4：質の高い教育をみんなに ・SDG5：ジェンダー平等を実現しよう ・SDG6：安全な水とトイレを世界中に ・SDG7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに ・SDG8：働きがいも経済成長も ・SDG9：産業と技術革新の基盤をつくろう ・SDG10：人や国の不平等をなくそう ・SDG11：住み続けられるまちづくりを ・SDG12：つくる責任 つかう責任 ・SDG13：気候変動に具体的な対策を ・SDG14：海の豊かさを守ろう ・SDG15：陸の豊かさを守ろう ・SDG16：平和と公正をすべての人に ・SDG17：パートナーシップで目標を達成しよう	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定
11	同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わしたりするなど、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わしたりするなどの経験について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・自身や他者の SDGs の課題解決に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・SDGs の制度や運用等の改善に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・節電、節水を心がけることについて、同僚、家族や友人などと話している。 ・エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩くことについて、同僚、家族や友人などと話している。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
12	SDGs の 17 の目標のうち、自分の業務と繋がりがあと思う目標について、あてはまるものをお選びください。(例：病院業務とゴール 3、教育支援とゴール 4 など)	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 18. 特にない (1 から 17 の回答にあてはまるものがない)
13	SDGs の 17 の目標のうち、あなたが特に重要であると思う目標を 5 つお選びください。(5 つまで)	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 18. 特にない (1 から 17 の回答にあてはまるものがない)

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
14	SDGs の 17 の目標のうち、内容について深く調べてみたい目標について、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 18. 特にない (1 から 17 の回答にあてはまるものがない)
15	SDGs の 17 の目標のうち、琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標について、あてはまるものをお選びください。	複数回答	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 18. 特にない (1 から 17 の回答にあてはまるものがない)

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
16	琉球大学 SDGs 推進本部が設置されて以降、教育、研究、社会貢献、業務・ガバナンス、カーボンニュートラル推進の各部門において様々な活動が推進されています。下記の中で重点的に取り組むべきと思う項目について、あてはまるものをお選びください。 ※SDGs 推進本部各部門の取組については、下記の URL からご参照ください。 https://x.gd/7xJ5P	複数回答	1. SDGs の達成に貢献する教育実践に向けたセミナー等の実施 2. 授業科目と SDGs 目標の関係の可視化 3. SDGs 教育カリキュラムの構築 4. 高大連携による SDGs の推進 5. 産学連携協定による SDGs プロジェクトの推進 6. SDGs 達成に貢献する研究プロジェクトの推進 7. ICT を活用した離島教育環境改善事業 8. 子どもの貧困問題への対応 9. SDGs の概念を取り入れたキャンパスツーリズムの展開 10. 国際貢献の見える化と方向性の確認 11. 地域との共同事業による SDGs 目標の対応状況の可視化及び評価への展開 12. SDGs の視点を取り入れたハラスメント関連規則の改正 13. ホームページや SNS などによる SDGs 広報の推進 14. SDGs コミュニケーション活動の推進 15. THE インパクトランキングを活用した SDGs 活動の向上 16. SDGs に関連する目標と評価指標の設定と進捗管理 17. 県内外の SDGs パートナーシップの推進 18. カーボンニュートラルの推進 その他
17	琉球大学における SDGs に関する今後の取組について、あなたのご意見を下記にお書きください。	自由回答	

(3) 学部学生向け

NO.	設問	タイプ	選択肢
1	SDGs について、お聞きします。あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs に関する以下の説明文を参考にあなたの理解度を選択してください。 (例) ・SDGs とは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) のことである。 ・SDGs は、17 のゴールがある。 (参考)SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？ (国際連合広報センター ウェブサイトより) https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounder/s/31737/	単数回答	1. 内容をよく理解している 2. 内容をある程度理解している 3. 内容をあまり理解していない 4. 内容をまったく理解していない
2	SDGs をよりよく理解するための情報収集・学習について、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs をよりよく理解するためのあなたの状況について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・SDGs に関する書籍等の読書。 ・SDGs に関する番組等の視聴。 ・SDGs に関する授業・セミナー・講演会等の受講。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり (予定) がない 4. 未定
3	SDGs の課題解決の取組について、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs の課題解決のためにあなたが行っている取組 (日常的な実践) について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・SDGs を意識した行動をしている。 ・無駄なエネルギーを消費しない。(節電、節水を心がけている。) ・エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩いている。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり (予定) がない 4. 未定
4	SDGs に合わせた自身の取組との関連付けについて、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs のゴールに合わせた自身の取組との関連付けについて、以下を参考に選択してください。 ・以下の SDGs の 17 のゴールと上記「3」で回答されたような自身の取組との関連付けを意識している。 SDG1 : 貧困をなくそう SDG2 : 飢餓をゼロに SDG3 : すべての人に健康と福祉を SDG4 : 質の高い教育をみんなに SDG5 : ジェンダー平等を実現しよう SDG6 : 安全な水とトイレを世界中に SDG7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに SDG8 : 働きがいも経済成長も SDG9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう SDG10 : 人や国の不平等をなくそう SDG11 : 住み続けられるまちづくりを SDG12 : 作る責任 使う責任 SDG13 : 気候変動に具体的な対策を SDG14 : 海の豊かさを守ろう SDG15 : 陸の豊かさを守ろう SDG16 : 平和と公正をすべての人に SDG17 : パートナリシップで目標を達成しよう	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり (予定) がない 4. 未定

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
5	同僚、家族や友人などとの SDGs について意見交換を交わしたりするなど、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わしたりするなどの経験について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・自身や他者の SDGs の課題解決に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・SDGs の制度や運用等の改善に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・節電、節水を心がけることについて、同僚、家族や友人などと話している。 ・エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩くことについて、同僚、家族や友人などと話している。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり（予定）がない 4. 未定

(4) 大学院学生向け

NO.	設問	タイプ	選択肢
1	SDGs について、お聞きします。あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs に関する以下の説明文を参考にあなたの理解度を選択してください。 (例) ・ SDGs とは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) のことである。 ・ SDGs は、17 のゴールがある。 (参考)SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？(国際連合広報センター ウェブサイトより) https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrou nders/31737/	単数回答	1. 内容をよく理解している 2. 内容をある程度理解している 3. 内容をあまり理解していない 4. 内容をまったく理解していない
2	SDGs をよりよく理解するための情報収集・学習について、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs をよりよく理解するためのあなたの状況について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・ SDGs に関する書籍等の読書。 ・ SDGs に関する番組等の視聴。 ・ SDGs に関する授業・セミナー・講演会等の受講。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり(予定)がない 4. 未定
3	SDGs の課題解決の取組について、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs の課題解決のためにあなたが行っている取組(日常的な実践)について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・ SDGs を意識した行動をしている。 ・ 無駄なエネルギーを消費しない。(節電、節水を心がけている。) ・ エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩いている。	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり(予定)がない 4. 未定
4	SDGs に合わせた自身の取組との関連付けについて、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、SDGs のゴールに合わせた自身の取組との関連付けについて、以下を参考に選択してください。 ・ 以下の SDGs の 17 のゴールと上記「3」で回答されたような自身の取組との関連付けを意識している。 SDG1：貧困をなくそう SDG2：飢餓をゼロに SDG3：すべての人に健康と福祉を SDG4：質の高い教育をみんなに SDG5：ジェンダー平等を実現しよう SDG6：安全な水とトイレを世界中に SDG7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに SDG8：働きがいも経済成長も SDG9：産業と技術革新の基盤をつくろう SDG10：人や国の不平等をなくそう SDG11：住み続けられるまちづくりを SDG12：作る責任 使う責任 SDG13：気候変動に具体的な対策を SDG14：海の豊かさを守ろう SDG15：陸の豊かさを守ろう SDG16：平和と公正をすべての人に SDG17：パートナーシップで目標を達成しよう	単数回答	1. している 2. する予定 3. するつもり(予定)がない 4. 未定

7. 調査票

NO.	設問	タイプ	選択肢
5	同僚、家族や友人などとの SDGs について意見交換を交わしたりするなど、あてはまるものを1つお選びください。 ※この設問では、同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わしたりするなどの経験について、以下の例を参考に選択してください。 (例) ・自身や他者の SDGs の課題解決に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・SDGsの制度や運用等の改善に関する研究・活動について、同僚、家族や友人などと話したことがある。 ・節電、節水を心がけることについて、同僚、家族や友人などと話している。 ・エコバッグ、マイボトルやラベルレスペットボトル等を持ち歩くことについて、同僚、家族や友人などと話している。	単数回答	1. している
			2. する予定
			3. するつもり（予定）がない
			4. 未定

令和6年度 琉球大学
SDGsに関する教職員・学生アンケート調査報告書
令和7年3月
発行：琉球大学SDGs推進本部
所在地：〒903-0213 沖縄県西原町字千原1番地
電話：098-895-8024（ダイヤルイン）
FAX：098-895-8185
ウェブサイト：<https://sdgs.skr.u-ryukyu.ac.jp/>